

東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究

—— 剣身各部位の計測に基づく分析 ——

杉 崎 茂 樹

はじめに

わが国の古墳の副葬品中の武器には、相手を叩いたり突いたりする衝撃武器、それに飛び道具である弓矢などの投射武器がある。衝撃武器には把握部と作用部に間隔のある長柄（長兵）武器である槍、鉾、戟（句兵）があり、把握部と作用部に間隔がない短柄（短兵）武器である直刀（片刃の刀）や両刃の剣が含まれる。鉄剣は刺突武器として古墳時代前期では最も代表的な短柄武器で、刀剣類の副葬点数が多数化する中期を経て、後期になると副葬例が希となり、その長さについては、時期が下るにつれ長大化するとされている。

鉄剣についてのこれまで研究では、その外装具、すなわち柄装具や柄構造、あるいは鞘装に着目するものや、埋葬施設内での被葬者と副葬位置の関係を追求するものなど多岐にわたっている。しかし、肝心と思われる剣身自体の形態が古墳時代の時間経過の中で、どのように変化しているのかについて、前期の畿内や西日本については散見するが、東日本の古墳に関しては総括的な検討が行われていない。その理由の一つとして、剣身の形態的变化が乏しいと認識されているほか、錆びて出土するのが通常で、遺存が悪く細部の形態がつかみにくいため、研究対象として敬遠されてきたことがあろうし、古墳文化の中心を外れた地域であることも理由に挙げられそうである。

本稿では静岡—長野—新潟県以東地域の古墳に副葬された鉄剣の剣身本体各部の形状が、時期の経過とともに、どのように変化・推移しているのか、集成をおこなったうえで統計的な分析を試みる。検討の主対象は古墳の埋葬施設出土の資料だが、弥生時代後期の墳墓ですでに副葬が開始されており、共時的に検討する。また、出土状況や拵えから槍先や鉾先と判断されている資料も少数であるが含めて検討しているのは、鉄素材の本体だけをみると、武器としての峻別が困難だからである。東日本出土の資料にとどまるが、わが国の古墳時代の鉄剣身の型式学検討や編年構築等、今後の研究の基盤形成の試みである。

1 古墳時代を主とした鉄剣の既往研究

作業にとりかかる前に、わが国における鉄剣及び関連する既往研究を概観しておきたい。

中国では西周時代末期の河南省三門峡虢国墓地2001号墓出土の玉柄鉄剣などが最古の鉄剣とさ

れ、鉄剣・鉄刀が近接戦闘の主要武器として完成するのは秦～前漢代に至ってからのことで、わが国では弥生時代に中国東北部の燕の影響下にあった朝鮮半島産や中国製の鉄剣を輸入、もしくは鉄材を輸入して生産されたとみられている。こうした東アジア的視点での鉄剣の出現とわが国への波及状況については、潮見浩や東潮が論述しており（潮見 1982、東 1986）、伝播の後にはわが国内で独自に発展したとするのが現在での基本的理解となっている。以下、古墳時代に関するものを中心にして、研究対象ごとに、これまでの研究状況を簡単に振り返っておきたい。

概説（概論）的・総合研究 刀剣の詳述・解説を主にする古典的な文献である小此木忠七郎と後藤守一の『日本刀講座 第1巻 概説編』（小此木・後藤 1934）や末永雅雄の『日本武器概説』（末永 1943）では鉄剣と刀との副葬割合を取り上げているが、あまり分析的な論述は行っていない。

戦後、小林行雄が『日本考古学概説』の「古墳時代の武器」の中で「突くことに多くの効果を期待した両刃の剣と、切ることを主にした片刃の刀とでは、その戦法も当然異なってくるが、剣は刀とともに前期に多く作られ、次第にその長さを増して刀に近づきつつ、後期にいたつて主役を刀にゆずった」と述べた（小林 1951）。

大塚初重も『世界考古学大系第3巻日本Ⅲ古墳時代』の「大和政権の形成武器武具の発達」で「古墳時代の前半期には、剣もまた主要な武器であった。（中略）滋賀県瓢箪山古墳では、大刀3本にたいして剣14本、静岡県松林山古墳では、大刀2本にたいして剣12本が副葬されていたように、剣が圧倒的に多い。しかも、はじめは比較的短い剣が多く、時代の下降とともに、その長さを増すことも、多くの遺物がしめすところである」と時期が下るにつれその長さが増すことを同様に述べている（大塚 1959）。

西川宏は『日本の考古学 古墳時代（下）』の「武器」で機能と用途により攻撃用、防御用、その他の戦闘用具に分類し、攻撃用武器の剣について「2、30cmの短剣から、4、50cmないし80cmくらいの普通の剣までいろいろ」あって、「古墳への副葬は、前期前半には大刀よりも多いが、後半になると少なくなり、後期には剣は衰退して大刀が盛行するにいたる。」と述べた（西川 1966）。大塚や西川の論述は概説書におけるものなので、資料観察と分析の状況が具体的に示されていないのは致し方ないだろう。

松木武彦は『日本列島の戦争と初期国家形成』の「古墳時代の武器とその変遷」において、古墳時代前期から終末期までを12期（前期：1～4期、中期：5～9期、後期：10～11期、終末期：12期）に時期区分し、各期の武器セットを図示して「武器様式」の変遷を提示、朝鮮半島とも比較検討した（松木 2007）。刀剣類を長剣・長刀（刃長50cm超）、短剣・短刀（50cm未満～30cm前後）、刀子（30cm未満～15cm前後）に分類するとともに、古墳からの刀剣の出土動向を分析しており、東日本の取扱い資料が少ないきらいはあるが、現在での古墳時代の武器に関する総論的研究の到達点といえる。

豊島直博は鉄製刀剣類に関する自己のそれまでの研究を骨格とした『鉄製武器の流通と初期国家形成』を上梓した（豊島 2010）。鉄剣身に関する部分が主体となったものではないが、わが国における鉄製武器に関して、中韓を含めた東アジア的な視点を加味した総合的な研究成果として結実しており、今後の鉄製刀剣類研究の新たな基盤となるものである。

インターネットを利用した新しい動きとして、古代歴史文化協議会が同会参加の14県による古墳時代の刀剣類についてのデータベース作成と公開が行われている（古代歴史文化協議会2016-2024）。鉄剣については法量や形状についての悉皆の情報収集の動きであり、参加組織の増加による基礎研究の進展が期待される。

鉄剣身（本体）の研究 古墳時代の鉄剣の剣身＝本体の寸法と変化に具体的に言い及んだのは後藤守一「古墳時代前期の剣」が最初であろう（後藤 1940）。検討している鉄剣の数は15点と少ないながら、前期古墳出土の剣の長さ、身と茎の長さの比率、全長と身幅の比率などについて比較、分析している。先行する銅剣や楽浪郡の鉄剣との関連は稀薄と述べ、古墳時代の鉄剣は「畿内を中心として起こった」とし、鞘と柄の合わせり方の関係について、「合せ口式」と「呑み口式」の二つの様式があることを指摘したり、「蛇曲状」剣（蛇行剣）の儀器説を提示したりしている。

東潮は前掲の著述（東 1986）の中でわが国の鉄剣を漢代の尺度（約23cm）を基準として全長により長鋒剣、中鋒剣、短鋒剣に分類した。弥生時代の鉄剣は全て舶載とみており、鉄剣の長さの規格を漢尺に求めるものの「中国との直接的関係」はないとみる。

岩崎卓也は「古墳の変革—東国の場合—」の著述中で古墳時代前期古墳出土の鉄剣・直刀の長さを数例示し、この時期に「刀・長剣・長柄の槍が近接戦用武器として顕在化し」、西日本では鮮明に、東日本ではやや遅れて確認できると説いた（岩崎 1988）。分析例は少ないものの、長剣化を具体的に検討し、日本の東西での時間差があったことを指摘したが、中期以降の傾向については触れていない。

この頃から鉄剣の長さによる分類研究が活発化する。川越哲志は鉄剣長と剣身長、茎の形態により長剣を2つと短剣を3つに形式分類して系譜を検討するとともに、外装や歴史的意義についても言及した（川越 1993）。弥生時代に限るが、当時として全国的な集成、分類を行った点、および弥生時代の鉄剣所有者の社会的身分や副葬品としての意味を述べた点を評価しておきたい。

池淵俊一は同じ頃、古墳時代前・中期の刀剣の長さに着目した変遷と画期を追求した（池淵 1993）。鉄剣については刃長20～22cm、26～28cm、38～40cmに出土点数のピークを認め、そのうちの38～40cmのピークを重視して短剣と長剣とに分類したうえで、それらの剣と茎の分類による変遷・年代感を提示、三つの画期を主張した。その第三の画期（5世紀）で長剣が一つの形式に統一されるといえるが、組上にあげた資料が少なく、自らあげる茎尻の形態変化をあまり考慮していないようにみえるので、説得性を得るためには、さらなる検討が必要ではないだろうか。

禹在柄は中国・朝鮮半島・日本出土の鉄剣99本を短剣・小剣・長剣の三つの器種に分類、中国と朝鮮半島での鉄剣の盛行と鉄製素環頭への交替の状況を述べたうえで、わが国での鉄剣の出現と変遷の過程を述べている（禹 1999）。この過程に3つ画期があると主張し、第1は弥生中期後半の「短剣の出現」であり、第2が古墳時代開始期の「長剣の出現期」、そして第3が古墳時代中期＝5世紀の長剣の「規格化と定型化が顕著」となる段階で、東アジア世界で緊密に連動しているとしている。資料の集成にやや不足感があり、わが国については西日本に偏っているきらいはあるが、剣身の茎や関の形態に多角的に着目した分析視点は評価される。

近年では、杉山和徳が弥生時代における日本列島出土鉄剣と朝鮮半島南部出土鉄剣を集成し、サイズと身部断面形態、茎部側面形態の三つの視点から分類をおこない、短剣と長剣を大別するとともに、日本列島出土短剣を3大型式6小型式に、朝鮮半島南部出土短剣を3型式に細分した（杉山 2015）。そして各型式の年代を示して日本列島における鉄剣の出現過程を検討し、日本列島の鉄剣は、その出現以来、直接、間接的に朝鮮半島南部の影響を受け続けながらも、最終的には朝鮮半島南部の変遷とは異なる小型化、規格化という独自の短剣文化を発達させてきたと結論付けた。弥生時代の鉄剣の系譜を明快に説明するとともに、古墳時代前期前半期のまでの鉄剣は、わが国に波及した形態のものをベースに改良し、独自の形で変遷したと主張している。

構造研究（柄と剣身の結合方法など） この領域では神林淳雄の柄縁と鞘口の合わせる形状が「合口式」と「呑口式」があるとする研究（神林 1938）や、菊地芳朗による八日市市雪野山古墳出土刀剣の柄・鞘の遺存木質に着目して剣と槍との構造の差違を明らかにした研究（菊地 1996）がある。ほかに、豊島直博による古墳時代前期の鉄剣の把をと鞘を型式分類して前期後半に構造の変化＝画期を指摘して政治・軍事情勢の変化に伴う剣装具の多様化に反映すると推定する研究は前出の論考の成果を構成する一部である（豊島 2010）。

以上の研究は遺存する木質の詳細な観察によるもので、低湿地出土の刀剣類の柄や鞘の遺存状況の良好な発見の増加が背景にある。

外装研究（柄、鞘の研究） 小林行雄がそれまで曖昧だった鹿角製の刀剣装具の部品の位置論に和歌山県磯間岩陰遺跡出土資料等により終止符を打った研究（小林 1976）や置田雅昭による、古墳時代の短剣の把には木製、鹿角製のほか銅製もあって、その構造を2類4種に分類する研究（置田 1996）のほか、沢田むつ代は「古墳出土の鉄刀・鉄剣の柄巻きと鞘巻き―織物などの種類と仕様―」で鉄刀・鉄剣の柄と鞘を巻いた繊維の種類や仕様に関する研究を行っている（沢田 2008）。

鉄剣身形状から社会状況等を分析する研究 田中新史は千葉県市原市の出現期古墳である神門5号墳の号墳の調査概要を述べる中で、弥生時代から古墳時代初頭ころの茎の状況に言い及び、特に古墳出現期の剣身の長短が被葬者の性格を反映している可能性を提示した（田中 1984）。また、近年ではライアン・ジョセフが鉄剣本体の厚みを分析の「有効な着眼点」として、剣身

の全長や刃幅に加え刃と茎の厚さも加味した分析を岡山県地方の古墳出土品に対して行い、厚手刀剣出土古墳の地域的偏在状況の変遷を述べており、それらを畿内政権と連携しての入手を、薄手の刀剣については在地での製作の可能性を提示している（ライアン・ジョセフ 2019）。

小結 以上、鉄剣研究といっても多岐にわたっているが、剣身本体の形状に関してはどちらかといえば地味なテーマであって、弥生～古墳時代の時間経過での形状変遷については十分な研究成果があがっているとは言えない状況にある。構造や材質といったどちらかといえば特徴的な部分に着目した研究においては順当な進展を認めてよいと思われるが、剣身本体の形状変遷といった基本的な領域も古墳時代の武器研究において、今少し焦点を当て詳細に分析すべき課題であると考え。本稿ではとりあえず古墳文化の東方領域にあたる東日本所在の古墳出土資料に焦点を当て、その具体相を把握するとともに、他地域との比較検討のための基盤作りを行いたい。鉄剣は古墳時代の主要な殺傷武器であり、その形状変化の盛衰状況は他の武器・武具のそれと密接、相互に関連しているに違いない。その様相を明確にするのは、今後の型式学的検討や編年研究、副葬品としての意味合いを考える前提となる基礎作業であるばかりか、当時の武器・武具の変遷の相互の関連を論じるうえで必要かつ重要な作業と考える。

3 分析の方法

剣身各部の形状とその変化の把握のため、まず時期区分の枠組みを設定し、その中で鉄剣の統計的処理を行い、その結果を比較して形状の変化を論ずることとした。その区分は、〈弥生時代後期〉→〈古墳時代前期前半〉→〈古墳時代前期後半〉→〈古墳時代中期前半〉→〈古墳時代中期後半〉→〈古墳時代後～終末期〉という大まかな時期区分とした。（以下、煩瑣なので「時代」を省略する場合があります、挿図等で後～終末期を後期以降としている場合がある。）

各時期の年代観については、弥生後期はおおよそ2世紀代から3世紀中葉ころまで、古墳時代の各時期については『前方後円墳集成 東北・関東編』（近藤義郎編集 1994、以下、「集成編年」と略）に概ね依ることとし、古墳時代前期前半はこの集成編年の1・2期で西暦3世紀の後葉ころから4世紀前半、後半が3・4期で4世紀の後半、中期前半が5・6期で5世紀前半、後半は7期で5世紀後半、後期以降は8期以降で5世紀末以降、7世紀代までである。研究者により「古墳出現期」あるいは「古墳時代早期」と区分する弥生時代のとの交差時期については古墳時代前期に含めた。鉄剣自体の製作時期が決定できない場合がほとんどなので、副葬された古墳の時期で区分している。

検討エリアとしての「東日本」とは新潟県—長野県—静岡県以東の東日本エリアで、概ね岩崎卓也が前掲書で「東日本」とした古墳の所在範囲（岩崎 1988）にあたり、畿内を中心とする古墳文化の東方の領域であって、そこに所在する弥生墳墓と古墳、墳丘を持たない単独の埋葬遺構も対象とした。

扱った資料は錆により鋒や鑄といった表面的な形状はもちろん、剣身や茎の断面などの細部までは把握できないものも少なくない。本稿では、剣の全長と剣身長と幅、茎の長さや形態、それに関の形態や鑄や目釘等について基本的に発掘調査報告書から情報を得ている。資料数は合計で約260遺構からの出土の約440本を集成（第2図）してデータベース化（第1表）し、時期毎にグラフを作成して検討資料とした。データベースの項目は①全長、②刃長、③関幅、④茎長（実長）、⑤茎各部の形態、⑥関の形態、⑦その他（鑄・目釘など）であり、出土位置情報も参考として加えた。本稿で使用する鉄剣部位の呼称と茎・関の長さや幅等の形態分類は第3図のとおりで、前述の池淵や禹の分類を参考に設定した。身は刃が研ぎ出された部分で第1表の刃長とはこの身の長さであり、関を境に茎となる。茎のプロポーションとしての長短は刃長（身の長さ）の1/5を基準に長・短に、幅は身1/2を基準に広・細に分類した。剣身や茎の厚さも重要な分析視点であるが、寸法の計測値は主に発掘調査報告書の実測図からの情報によっており、ミリ単位の正確性が確保できないので、本稿では項目立ては見送ることにして対象としていない。

なお、材質の特性から完形でない資料も多いが、寸法については現実性の高い推定復元ができる欠損品も対象とした。欠損して全体の形状の推定がむづかしい資料は除外している。

また、剣身が数カ所で屈曲する所謂「蛇行剣」や拵えが遺存して槍先あるいは鋒先とされるものや、わずかであるが両刃鋒刀（菖蒲造刀）も含めている。

茎尻の形状、鑄、目釘等も各出土遺構の報告書の実測図から判断しており、錆が覆って正確性を欠いている可能性や誤認もあるものと思われる。今後、X線調査等で修正される可能性があることをことわっておきたい。

4 各時期の状況（第4～14図、第1表参照）

鉄剣の機能の第一はその刃長にあり、まずはそこに注目すべきと考える。刃長による便宜的な説明上の分類を示しておきたい。例えば第5図のグラフで古墳時代前期前半に注目すると、その大半が30cm未満に分布しており、それらを「短刃」と区分する。次に中期後半に注目すると50cm以上にゆるやかなまとまりを認めることができ、それらを「長刃」、そして両者の中間を「中刃」と分類しておく。これと対応して鉄剣の全長については、37cm未満を「短剣」、57cm以上を「長剣」、その中間を「中剣」と分類し、各時期での形状変化をみていくことにする。

弥生後期 時期判定根拠となる共伴資料を欠くものも多く、時期を再考する必要がある資料も含まれているものと思うが、大方はその後半段階の所産であろう。対象地域内では群馬県や長野県域での資料が多く、千葉県や栃木、茨城県以北は出土数自体が少ないのは、副葬する墳墓がこの時期にほとんどないことによるのだろう（第14図）。俎上にあげたのは31本である。遺構としては周溝墓の埋葬施設である土壙（木棺？）墓が多いが、群馬県では礫床墓と呼ばれる、複数の土壙墓が集合する特徴的な墳墓からの出土がある。遺構の規模としては埼玉県観音寺遺跡4号

方形周溝墓や静岡県文殊堂2区3号方形周溝墓は一辺15mを超え、この時期の墳墓としては大規模である。

全体の形状が確認できる資料が少なく、全長では36cm前後以下、刃長では32cm前後以下の短剣・短刃剣が大勢を占め、それ以外は散漫な分布を示している(第4、5図)。長野県根塚遺跡B区の剣2(全長74cm)は柄頭に蕨手(渦巻)状の突起をもつ特殊な長剣で、朝鮮半島に製作地を求める研究者が多い⁽¹⁾。

茎はプロポーシオンとして短いのが約7割、長いものが3割で(第9図)、目釘孔とされる「刃関孔」が刃の関に近接して2つある、いわゆる「刃関双孔」を有するものが15例あった。茎の形態は中細より直がやや上回る比率である(第10図)。関は直角が約5割、撫が約3割、関幅は身幅に対して広いものが分析した全期間を通じほとんどを占める(第12図)。

被葬者との副葬位置関係は、頭部付近5例、体側(推定を含む)が12例ほどであり、そのうち左体側が8例とやや優位である。胸上または佩用の可能性のあるものが8例ほど認められた。

古墳前期前半 38埋葬施設・58本が対象となった。遺構としては前代から引き続いて方形周溝墓での出土が多く、その系譜に連なる方墳やこの時期に出現した前方後方墳、前方後円墳の埋葬施設には複数本が副葬される状況も現出している。千葉・茨城・栃木県域に分布が拡大するが東北で拾えないのは副葬遺構が過少なためであろう。全長では42cm、刃長では30cmに満たないものが大勢を占めており、長・中剣と長・中刃は僅かである。全長では16cmから20cm後半にかけて出土数量分布の「ヤマ」が認められ(第4図)、刃長では12cmから10cm後半に「ヤマ」が認められる(第5図)。茎の実長については弥生後期段階と同様3～5cmが主流だが、6～7cm以上のものが数的に多くはないが平均的に出現しており(第8図)、柄の材質や構造の変化に対応する動きが推定され、前代とは様相が一変している。プロポーシオンの長茎が7割、短茎が3割で、前代とは逆転しており(第9図)、刃関双孔を有するものはほとんど姿を消す。

この時期の特徴的なものとして静岡県新豊院山2号墳の剣1・2や長野県高遠山古墳の剣1のような茎が細長い個体が散見される。関は直角が約8割を占め(第12図)、以降は変わらない傾向である。茎尻は一文字が約7割と高率となり、これも後期以降まで継続的な傾向となっている(第11図、以下繁雑なので図との対応は省略する)。

副葬位置では頭部付近9例、槍を除くと体側(推定を含む)が16例認められ、足先の推定位置のものが2例認められた。

古墳前期後半 この時期は東北地方での例が加わってくる。41施設、92本で、遺構としては、周溝墓や円墳、方墳に加えて、大型の前方後円墳や前方後方墳が加わり、本数も増加している。

全長では40cm前後以下、刃長では33cm前後以下のものが大勢を占めている。全長では50cm超、刃長40cm超のものが10本ある。その中でも全長では29～37cm前後に数量的分布の緩やかなヤマが、22～27cm前後にも小さなヤマが認められ、刃長では22～26cmを中心に緩やかなヤマを

認めてよい状況である。全体としては前期前半より短剣あるいは短刃とした区分のうちでも長めの方に数的分布傾向が強くなっている。茎は長いものが約8割5分、短いのが約1割5分で、前期前半よりさらに長茎優位となる。関幅は広関約9割と前期前半と変わらないが、直茎が中細よりやや優位となる。茎の実長については弥生後期と古墳前期では3～5cm前後に分布傾向が強かったが、この時期に10～11cmにも分布のヤマが生じている。関は直角が約6割強と比率を下げ、その分、斜、撫関が若干増加傾向にある。茎尻は一文字が約6割を占めている。

副葬位置では頭部付近19例で頭部より上方が多く認められ、体側・脚側（推定含む）は20例認められていて、左体側がやや優位であろうか。足元やその下方は11例認められた。

古墳中期前半 46施設、122本を対象とした。墳形として大形円墳や帆立貝古墳の例が多いのは、全国的な当該期の古墳の築造動態だろう。大型前方後円墳の例が僅かなのは築造数が少なく調査例も少ないためであろう。小型の円墳からもあまり多くないが類例を拾うことができる。埋葬施設を複数もつ例が多くなり、一埋葬施設での副葬本数が増加している状況は検討対象資料の増加に反映される。

鉄剣の全長は70cm後半台まで、前時期より分布が拡大した感があり、当然だが刃長でも60cm前半代まで資料数がフラットに増大している。あえて言うなら全長では中剣の41～50cm、刃長では33～36cm付近に緩いヤマを認めてよいと思われる。茎は長いものが9割を超え、短茎は希となる。関幅は広関がほとんどとなり、前期後半で散見された関幅が細く長い茎のものは僅少となっている。茎の形態は中細が直茎より優位となる。関は直角が6割弱とやや比率を下げ、その分撫関の増加傾向が認められる。茎尻は一文字が割合としては約5割に低下するが数的には多数を占めており、栗尻が増加傾向にある。入山は明確に確認していないが、可能性のあるものが若干認められる。刃関双孔のものを2例認めたが、茎の実長が長いので伝世品の可能性は低いのではないかと考えられる。所謂「蛇行剣」も散見することができた。

副葬位置については、頭部付近29例で、体側・脚側（推定含む）が19例、足付近が12例を認め、佩用を推定できるものが若干あった。

古墳中期後半 この時期では70施設、99本を対象とした。古墳の形態では大形円墳や帆立貝古墳の例が多いのは中期前半と同様、この時期の古墳の築造動態の反映であろう。小型古墳に加え、古墳の所在する造墓地域内に墳丘・周溝をもたずに単独で設営された埋葬施設からの出土例が散見された。埋葬施設を複数持ち、一埋葬施設での副葬本数が増加している状況は中期前半期と変わらない。

全長では中剣から長剣の80cm半ばくらいまでくまなく分布する状況が見て取れ、90cm台のものが散見される。短剣は20cm後半台が中心で、20cm以下は殆どみられなくなっている。刃長では22cm前後から70cm前後までが安定した分布域である。前代と比べると長刃例が増加傾向を指摘できよう。茎に関しては、長茎が9割を超え、短茎が希なのは中期前半と変わらない。

関幅は広関が全てとなり、茎の形態は中細が直茎より優位なのも中期前半と変化はなく、関も同様である。茎尻も一文字が約5割強で、栗尻は若干減少気味、隅切は前代に続き若干認められ、入山は希である。

注目されるのは、千葉県稲荷台1号墳の「王賜」銘象嵌をもつ鉄剣がこの時期の所産である。

また、栃木県桑57号からは蛇行部分に明確な稜（カド）を有する希な形態の「蛇行剣」が出土しており、ほかの古墳からも緩く蛇行する剣身の出土例が若干認められた。

副葬位置については、頭部付近11例と減少、体側・脚側（推定含む）が43例と増加、体側・脚側は44例と半数を占める。佩用状況と考えられる例も僅少で、足付近の副葬も減衰している。

古墳後～終末期 この時期になると鉄剣の副葬自体が劇的というほどに前代と比べて少なくなっているものと思われ、34施設、39本しか拾うことができなかった。前方後円墳では5世紀末頃の埼玉県稲荷山古墳（以下、埼玉稲荷山古墳）と茨城県三昧塚古墳のみで、その他ではやや規模の大きい円墳が多い。積石塚の可能性のある方墳や帆立貝古墳、横穴式石室や終末期である横穴墓からの例も若干ある。

鉄剣の全長は30cm台以上80cm台まで分布が拡大しているのは中期後半とほぼ同様であり、刃長は20cm台後半～70cm台まで認められる。プロポーションとしての長茎がほとんどで、短茎はごく希なのは中期後半と変わらない。関幅はほぼ全て広関である。茎の形態については中細が直より優位なのも中期後半と変わらない。関は直角が約7割、撫関が約2割である。茎尻も一文字が約5割強でその他もほぼ中期後半とほぼ同率である。入山尻は埼玉稲荷山古墳のほか、三昧塚古墳の1点に可能性がある。蛇行剣が埼玉県で2例認められた。

埼玉稲荷山古墳出土の「辛亥年」象嵌銘を有する鉄剣の製作時期は辛亥年＝西暦471年が有力なので中期後半段階に含めた方がよいかもしれないのだが、出土須恵器による集成編年の区分に従いこの時期に含めている。

副葬位置は体側・脚側例が数例ずつ確認できたが、佩用状態と足付近の副葬はほとんど見いだせなかった。

5 まとめ

前項で各時期の状況を概観しており、重複することがあるかと思うが、分析で明確になったことやその背景、思いついたことなどを述べてまとめとしておきたい。

刃長の推移 古墳時代前期前半では大方が短刃剣で、分布のヤマについては先に述べたとおりである。弥生時代後期の傾向が引き続いたものと思われるが、刃関双孔がほぼ消滅することや短茎の剣が激減するなど、様相が一変しているのは、新たな剣身構造へ転換とそれに伴う柄構造の創出がなされた可能性が高い。弥生後期に散見された中刃・長刃剣が僅少となるのも前期前半の特質である。そして前期後半になると短刃剣でもその長い部分の領域に分布が偏り、ヤマがや

や長い方向にシフトしているのが認められ、刃長が倍の長さを指向していることを指摘しておきたい。中刃・長刃剣がやや目立ち始めるのもこの前期後半段階である。

中期前半ではスポット的なヤマが認められるものの、全体的には63cm位まで刃長の分布がフラット化する。この時期に比較的広範な長さの需要（要望）に応えられる生産体制（品揃え）が整った可能性がある。そして短刃は前代と比べ明らかに下火となっているが、決して廃れている状況にはない。そして中期後半では長刃剣の伸長化傾向を認めることができるが、極端に集中するサイズが認められるわけではなく、50cm台半ばから60cm台前半に緩い集中傾向が認められる。短刃・中刃はともにグラフでは分布に粗さが認められるものの、本数的には廃れた状況にないのは前半と変わらない。

後期以降では資料数が減っており、中刃は本数が拾えるが、短刃・長刃は散漫な状況で、鉄剣副葬の廃れゆく現象がその点数から読み取ることができる。どちらかというところ突機能の強い鉄剣から斬打撃機能を兼ね備えた、同じ長さなら重量感のある直刀へと、白兵戦における短兵器の変換がなされたものと推察され、防具である甲冑の強化や戦術の変化に対応した現象と理解できるのかもしれない。

刃長と尺度 かつて、東潮は弥生時代の鉄剣を「尺度と無関係でないとの仮定をもとに23.0(±0.5)cmを基準として区分」したが(東 1986)、中国では三世紀頃まで周古尺系(=20cm前後)が行われており、前漢から三国・南北朝期では23.5~24.5cmの小尺系の尺度が実施されていたことが確かめられている(岩田 1979)⁽²⁾。この小尺系の尺度がわが国の鉄剣の寸法に反映されているとするのは安直にすぎるのかもしれないが、刃長・全長の分布状況からその可能性を否定し去ることはできないだろう。具体的には刃長における前期前半の11~13cmの集中状況は1/2尺、前期後半の22~26cmに厚めに分布する状況は1尺という緩い「規格」の反映を想像させる(第5図)。

茎と茎尻、関の形状の推移 茎の実長については弥生後期に6cm以下が大半を占めていたのが、古墳時代前期前半ではそれに加え13cm位までのものが少数ながら出現している(第8図)。そして、前期後半には10cm前後のものが増加しており、中期に至りさらに長いものが増加するのは、剣身の伸長に対応し、柄・鞘構造の変更等に対応した動きであろう。

刃長との長短のプロポーシオンをみると、弥生後期では約2:1の割合から、古墳時代前期前半では約1:3と逆転しており、この傾向は前期後半以降さらに長いものの占める割合が9割超へと増大している(第9図)のも同様の構造変更への対応が考えられる。

茎の形態としては、直茎と中細が弥生後期と前期後半では拮抗する状況が、前期前半と中期以降では直茎より中細が優勢である(第10図)。茎尻の形態としては全期間を通じて一文字が最優位、次が栗尻である。稲荷山古墳の辛亥年銘鉄剣の特徴的な入山は隅切と共に古墳時代を通じてまれな形状であることがわかった(第11図)。

関については全期間を通じて広関が圧倒的で、前期に細いものを散見した。形態としては直関が各時期を通じて優位であり、撫関、斜関が続いている（第12図）。

蛇行剣と有銘鉄剣 最後に特殊な形状の蛇行剣と象嵌銘を持つ鉄剣について少々触れておきたい（第15図）。

蛇行剣は文字通り身部分が何か所かで滑らかに屈曲する形状で、北山峰生によれば、出現の時期は中期が中心で後期の初めころまでであり、2回から8回の屈曲点をもつものがあるとされ、全国で65本の出土が確認されている（北山 2024）。どちらかという東日本より畿内以西、特に九州での出土が目立っているようだ。本稿でも中期から後期前半期の所産で何例かを拾えた。このうち、栃木県桑57号墳の蛇行剣は刃長58.5cmの長刃剣で、明確な稜（カド）を7つ有する点で「蛇行剣」というよりむしろ「屈曲剣」というべき特異な形状で、わが国では今のところ唯一であろう。壮年女性被葬者の右体側からからの出土である。

象嵌銘文を有する特筆すべき鉄剣についても多少言及しておきたい。1点は千葉県稲荷台1号墳の銀（厳密には銀と金の合金）象嵌の「王賜」銘をもつ鉄剣（以下、「王賜剣」）で推定全長約73cm、刃長59.5cm、茎長13.5cmと長剣・長刃剣、もう1点は埼玉稲荷山古墳出土の金（大部分の箇所が厳密には金と銀の合金）象嵌銘の「辛亥年」銘を有する鉄剣（以下、「辛亥剣」）で、全長約74cm、刃長58.5cm、茎長15.5cmと長剣・長刃剣である。王賜剣は鑄のない断面レンズ状の剣身の関に近い部分、中軸線からやや右側にそれた位置に、裏表各6文字が確認されていて、合計12文字の構成とみられているが、銘文のうちの「王賜」「敬」が判読できるもののその他は脱落部分が多く、全容は不明である。かたや辛亥剣は鑄を有し、断面はつぶれた菱形をしており、その鑄上に115文字で所有者の乎獲居臣が家系と作剣の由来を記している⁽³⁾。形状の細部や象嵌銘の位置、銘文から考えられる剣としての性格は異なるが、この2者の寸法の類似性には注目しておきたい。60cmを少し下回る刃長寸法は前述の小尺系の尺度の2.5尺であり、王賜剣の遺存がよくないので多少の躊躇があるが、長剣としての全長を考えると、ほぼ「同一寸法」といえるのではないかと。類例が少ないので断言できないが、この時期の象嵌銘を施す鉄剣の標準寸法であったのかもしれない。

歴史的背景 わが国の鉄素材の入手に関しては、古墳時代後期（6世紀以降）に国内生産が本格的に開始されたとされるが⁽⁴⁾、それ以前は『三国志魏書三十 弁辰傳』の産鉄記事⁽⁵⁾にあるように朝鮮半島の南部から主に入手していたらしい。その後、日本書紀・神功皇后52年条の百済の鉄の朝貢記事⁽⁶⁾にあるように百済からの入手ルートが開かれて、倭政権が大量に安定して入手が可能になったものと考えられる。中期以降に有力首長墳に大量の武器副葬が見られるようになるのは、このような背景が考えられ、副葬鉄剣のサイズの多様化、象嵌有銘鉄剣の出現もこうした事情、もちろん物的（資源・原材料的）だけでなく、工人の渡来による長剣・長刀製作技術のスキルアップもあったのであろう。東日本における古墳の副葬鉄剣は時期をおって単に「伸

長」したのでなく、こうした理由により中期にかけて「伸長したものが加わっていく」のであり、それまで主流の短刃剣が無くなったわけではない事実は重ねて強調しておきたい。

おわりに

以上、本稿により東日本における副葬鉄剣形状の具体的な推移が明らかになったものと思う。埋葬施設の崩壊、盗掘等で消失したもの等、全体の形状が失われた資料は俎上に載せていないが、統計的処理としてのサンプル数は十分確保されており、それほど的外れの結論となっていないものと考えている。

型式学的分類や編年、被葬者との副葬位置関係、関や茎の形態と柄装具との関係性の追及など今後の研究の起点を築くことができたものと思っており、東日本にとどまらず畿内とその周辺、さらに西日本に領域を拡大して検討をおこなってゆきたい。

【謝辞】 本稿執筆にあたり下記の各氏・諸機関から資料の熟覧、資料提供等で御協力を賜りました。記して謝意を表します。(敬称略)

青笹基史、飯田浩光、近江哲、加部二生、佐久間弘行、中井歩、橋口豊、深澤敦仁、水口由紀子、宮島秀夫、小山市立博物館、群馬県立歴史博物館、埼玉県立さきたま史跡の博物館、東松山市教育委員会埋蔵文化財センター、横浜市歴史博物館

【註】

- (1) 根塚遺跡の調査指導にあたった大塚初重、西谷正らの見解(木島平村教育委員会 2002『根塚遺跡』)。また、この鉄剣の素材を分析した大澤正己も加耶地方の製作と考えている。この時期の大方の長剣は朝鮮半島製と推定する研究者が多い。弥生時代の長剣について、近年では杉山和徳が長剣の特徴的な分布から、それらを九州製と考えている(杉山 2020)。
- (2) 岩田重雄の研究によれば、周古尺系では、春秋～三国=20cm弱、小尺系では、前漢=23cm強、後漢～三国・西晋=23.5～24cm強、東晋～唐24.5～24.7cm、後魏・東魏尺では、28.5～30cm、造営尺は、戦国期から30cmであるという(岩田 1979)。
- (3) それぞれの象嵌された文字について、王賜剣はその文字数について表裏14文字に復元されるとする説(市毛 1988)、辛亥剣は象嵌文字の復元作業が適切に行われていない箇所があるとする指摘(宮崎 1992)があり、問題を残している。さらに、銘文の解釈、埋葬施設に副葬された経緯について、両資料とも様々な説が提出されているが本稿では立ち入らない。
- (4) 今のところ初期の製鉄遺構として確認されているのは岡山県総社市千引カナクロ谷製鉄遺跡(総社市教育委員会 1999『奥坂遺跡群』)や同県津山市大蔵池南製鉄遺跡(久米開発事業に伴う文化財調査委員会 1982『椽山遺跡群Ⅳ』)など6世紀半ばから後半代とされる。
- (5) 同書には以下の記述がある。(筆者意訳)
「國出鐵，韓、濊、倭皆從取之。諸市買皆用鐵，如中國用錢」(國=弁辰は鉄を出し、韓、濊、倭はみな従いてこれを取る。諸市で買うにみな鉄を用いるは、中國が錢を用いるが如し)
- (6) 同書には以下の記述がある(筆者意訳)

東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究

「臣國以西有水、源出自谷那鐵山、其邈七日行之不及、當飲是水、便取是山鐵、以永奉聖朝」（臣國＝百濟の西に川があって、その水源は谷那にある鉄山から出ている。この鉄山は七日間でも着けない遠くにある。この川の水を飲み、この山の鉄を採掘して、永く聖朝＝倭國に奉る。）

【引用・参考文献】

- 東 潮 1986 「鉄剣」『弥生文化の研究 9 弥生人の世界』雄山閣 pp71-76
- 池淵俊一 1993 「鉄製武器に関する一考察」『古代文化研究第1号』鳥根県古代文化センター pp41-104
- 市毛 勲 1988 「王賜銘鉄劍銘文14文字説」『早大埋蔵文化財調査室月報 No.37』同調査室長滝口宏 pp2-4
- 岩崎卓也 1988 「古墳の変革—東国の場合—」『東アジアの古代文化 通巻第56号』大和書房 pp90-99 (⇒2000『古墳時代史論』雄山閣出版に再録)
- 岩田重雄 1979 「中国における尺度の変化」『計量史研究 Vol.1 No.2』日本計量史学会 pp1-37
- 禹在 柄 1999 「鉄剣の形式学的研究」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室 pp431-456
- 大塚初重 1959 「大和政権の形成武器武具の発達」『世界考古学大系第3巻日本Ⅱ古墳時代』平凡社 pp67-87
- 置田雅昭 1996 「古墳時代の短剣把装具」『ヒト・モノ・コトバの人類学』慶友社 pp580-591
- 小此木忠七郎・後藤守一 1934 「上古の刀剣」『日本刀講座 第1巻 概説編』雄山閣（復刻：1997『新版日本刀講座 第1巻』雄山閣出版 pp1-37）
- 川越哲志 1993 「東アジアの鉄器文化の動向」『弥生時代の鉄器文化』雄山閣出版 pp7-187
- 神林淳雄 1938 「原史時代剣装攷」『考古学雑誌 第28巻第9号』吉川弘文館 pp28-39
- 菊地芳朗 1996 「前期古墳出土刀剣の系譜」『雪野山古墳の研究考察編』八日市市教育委員会 pp49-82
- 北山峰生 2024 「蛇行剣の再検討」『第20回古代武器研究会発表資料集』古代武器研究会事務局 pp11-16
- 古代歴史文化協議会「古墳時代の刀剣類」<https://kodairekibunkyo.jp/touken-date.html> 2025年7月閲覧
- 後藤守一 1940 「古墳時代前期の剣」『考古学雑誌 第三十巻第三号』考古学会 pp1-22
- 小林行雄 1951 「古墳時代の武器」『日本考古学概説』東京創元社 pp189-199
- 小林行雄 1976 「鹿角製刀剣装具」『古墳文化論考』平凡社 pp431-482
- 近藤義郎編集 1994 『前方後円墳集成 東北・関東編』山川出版社
- 沢田むつ代 2008 「古墳出土の鉄刀・鉄剣の柄巻きと鞘巻き—織物などの種類と仕様—」『MUSEUM 617』東京国立博物館 pp5-35
- 潮見 浩 1982 「日本の初期鉄器文化」『東アジアの初期鉄器文化』吉川弘文館 pp260-372
- 末永雅雄 1943 「刀剣」『日本武器概説』桑名文星堂 pp24-52
- 杉山和徳 2015 「日本列島における鉄剣の出現とその系譜」『考古学研究 第61巻第4号』考古学研究会 pp45-64
- 杉山和徳 2020 「下高井郡木島平村根塚遺跡出土の鉄剣をめぐる諸問題」『信濃 第72巻第10号』信濃史学会 pp1-20
- 田中新史 1984 「出現期古墳の理解と展望—東国神門5号墳の調査と関連して」『古代 第77号』早稲田大学考古学会 pp1-53
- 豊島直博 2010 「弥生時代における鉄剣の流通と把の地域性」『鉄製武器の流通と初期国家形成』（独）奈良文化財研究所 pp17-45
- 西川 宏 1966 「6 武器」『日本の考古学 古墳時代（下）』河出書房新社 pp251-273
- 松木武彦 2007 「古墳時代の武器の変遷過程」『日本列島の戦争と初期国家形成』東京大学出版会 pp166-208
- 宮崎市定 1992 「稲荷山鉄刀」『謎の七支刀—五世紀の東アジアと日本 中公新書703』中央公論社 pp120-155
- ライアン・ジョセフ 2019 「古墳出現期における刀剣類の生産と流通の二相」『日本考古学第49号』日本考古学協会 pp23-43

【挿図出典】

- 第1図 地理院地図を利用して作成
第14図 地理院地図に加筆して作成
第15図 各報告書等より転載・改変して作成

【一覧表報告書（実測図掲載報告書等・各県毎・アイウエオ順）】

東北各県

- 会津若松市出版委員会編 1964『会津大塚山古墳』（1975学生社復刻）
伊東信雄 1979「福島県双葉郡浪江町上の原3号墳」『福島考古 第20号』福島県考古学会
川西町教育委員会 1995『下小松古墳群(1)』（同教育委員会 1988『下小松墳丘群薬師沢跡群第143・145号墳発掘調査報告書』に再録）
郡山市教育委員会 1998『大安場古墳群』
須賀川市教育委員会 1998『福島空港アクセス道路関連遺跡発掘調査報告Ⅳ—仏坊古墳群—』
辻秀人編『灰塚山古墳の研究』雄山閣
宮城県教育委員会ほか 1990『大年寺山横穴群』
山形県教育委員会 1979『大之越古墳発掘調査報告書』

茨城県

- 麻生町教育委員会 1989『常陸公事塚古墳群』
岩井市教育委員会 1975『上出島古墳群』
茨城県教育委員会 1960『三味塚古墳』
茨城考古学会 1972『茨城県筑波町山木古墳』
(財)茨城県教育財団 1990『桜山古墳』
(財)茨城県教育財団 2002『長峰城跡長峰遺跡・長峰古墳群』
浮島研究会 1976『常陸浮島古墳群』
後藤守一 1957『常陸丸山古墳』山岡書店
西宮一男 1969『常陸狐塚』
塙瑞比古 1933「常陸国関本町上野の古墳及発掘遺物」『武蔵野 第20巻第3号』武蔵野会

栃木県

- 小川町古代文化研究会 1957『那須八幡塚』吉川弘文館
小川町教育委員会 1986『那須駒形大塚』
小山市教育委員会ほか 1972『桑57号墳発掘調査報告書』
栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団 1999『寺野東遺跡Ⅶ』
日本窯業史研究所 1978『酢屋古墳群』
前沢輝政 1977『山王寺大榭塚古墳』早稲田大学出版部

群馬県

- 粕川村教育委員 1989『白藤古墳群』
加部二生 1995「群馬県出土の鉄剣・鉄刀」『群馬県古墳時代研究会資料集 第1集』同研究会
群馬県 1981『群馬県史 資料編3』
群馬県考古資料刊行会 1990『有馬遺跡Ⅱ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『成塚向山古墳群』

東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究

- 洪川市教育委員会 1978 『洪川市文化財調査報告Ⅱ一丸山古墳一』
洪川市教育委員会 1979 『空沢遺跡』
洪川市教育委員会 1987 『行幸田山遺跡《本文編Ⅰ》』
洪川市教育委員会 1994 『半田南原遺跡』
高崎市 1999 『新編高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』
高崎市遺跡調査会 1983 『倉賀野万福寺遺跡』
高崎市教育委員会 1989 『八幡遺跡』
高崎市教育委員会 1990 『山名原口Ⅰ遺跡』
沼田市教育委員会 1985 『石墨遺跡〈本文編〉一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書・K.C.Ⅶ一』
前橋市 1971 『朝倉Ⅱ号墳』『前橋市史 第一巻』
前橋市教育委員会 1970 『前橋天神山古墳図録』

埼玉県

- 上尾市遺跡調査会 2014 『坂上遺跡第3次調査』
上尾市教育委員会 1978 『薬師耕地前遺跡』
浦和市遺跡調査会 1994 『井沼方遺跡発掘調査報告書(第12次)』
浦和市遺跡調査会 1996 『大久保領家片町遺跡発掘調査報告書(第8地点)』
岡部町教育委員会 2005 『四十塚古墳の研究』
金井塚良一 2008 「東松山市岩鼻古墳群から出土した蛇行剣について」『埼玉考古 第43号』埼玉考古学会
熊谷市教育委員会 2011 『埼玉県指定史跡「塩古墳群」の調査』
考古学資料刊行会 1970 『諏訪山古墳群(第1次発掘調査報告)』
埼玉県教育委員会 1985 『埼玉稲荷山古墳』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1981 『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅺ』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1984 『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告ⅧⅧ 屋田・寺ノ台』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994 『稲荷前遺跡(B.C区)』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2008 『神ノ木2遺跡』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2009 『安養寺古墳群』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2012 『反町遺跡Ⅲ』
坂戸市 1992 『坂戸市史 古代資料編』
坂戸市教育委員会 2020 『入西石塚古墳出土遺物整理報告書』
蓮田市教育委員会 1989 『椿山遺跡一第3.4次一』
東松山市教育委員会 2013 『東耕地遺跡(1次～5次)・東耕地3号墳』
富士見市遺跡調査会 1987 『針谷遺跡群一針谷地区土地区画整理事業に伴う昭和60年・61年度の発掘調査一』
本庄市教育委員会 2006 『旭・小島古墳群一林地区Ⅰ一』
宮島秀夫 1995 「銅釧・鉄剣出土の方形周溝墓 観音寺遺跡4号方形周溝墓」『比企丘陵 創刊号』比企丘陵文化研究会
柳田敏司 1964 「埼玉県児玉郡生野山將軍塚発掘調査概報」『上代文化 第34輯』国学院大学考古学会

千葉県

- 市毛勲ほか 1959 「千葉県東葛飾郡沼南町片山古墳群の調査」『古代 第33号』早稲田大学考古学会
市原市教育委員会 1968a 『国分寺台調査概報昭和62年度』
市原市教育委員会 1968b 『南大広遺跡・海保古墳群』
市原市教育委員会ほか 1988 『「王賜」銘鉄剣概報千葉県市原市稲荷台1号墳出土』吉川弘文館

市原市教育委員会 2015 『市原市諏訪台古墳群・天神台遺跡Ⅱ』
 (財)市原市文化財センター 1997 『市原市姉崎六孫王原遺跡』
 (財)市原市文化財センター 1999 『市原市大厩浅間様古墳調査報告書』
 (財)市原市文化財センター 2004 『市原市辺田古墳群・御林跡遺跡』
 市原古墳群刊行会 2023 『王賜劍出土 埴 稲荷台 1号墳』
 (財)印旛郡市文化財センター 2011a 『台方宮代遺跡(2)』
 (財)印旛郡市文化財センター 2011b 『船形手黒 1号墳』
 柏市教育委員会 2001 『柏市埋蔵文化財調査報告書44』
 上総国分寺台遺跡調査団 1982 『上総国分寺台発掘調査概報』
 (財)香取郡市文化財センター 2002 『多古台遺跡群Ⅱ—No.3地点の調査—』
 木更津市教育委員会 2002 『高部古墳群Ⅰ』
 君津市教育委員会 1994 『平成5年度千葉県君津市内遺跡発掘調査報告書 戸崎城山遺跡萩野台遺跡福岡古墳』
 (財)君津郡市文化財センターほか 1986 『富津火力線鉄塔建設用地内埋蔵文化財調査報告書』
 (財)君津郡市文化財センターほか 1992 『千葉県木更津市—四留作第2古墳群第1号墳 同第1号塚・第2号塚』
 (財)君津郡市文化財センター 1996 『寒沢古墳群・愛宕古墳群・寒沢遺跡・上用瀬遺跡発掘調査報告書』
 古墳時代研究会 1989 『古墳時代研究Ⅲ—千葉県君津市所在八重原1号・2号墳の調査—』
 佐倉市大崎台B地区遺跡調査会 1987 『大崎台遺跡発掘調査報告Ⅲ』
 佐原市教育委員会 1988 『佐原市内遺跡群発掘調査概報Ⅱ』
 芝山はにわ博物館 1975 『遺跡日吉倉』
 渋谷興平 1978 『鶴崎天神台古墳』『史像 No.5』
 浅間山1号墳発掘調査団 1975 『浅間山1号墳発掘調査報告書』
 田中新史 1977 『市原市神門四号墳の出現とその系譜』『古代 第63号』早稲田大学考古学会
 田中新史 1984 『出現期古墳の理解と展望—東国神門五号墳の調査と関連して—』『古代 第77号』早稲田大学考古学会
 千葉県教育委員会 1994 『石揚遺跡』
 (財)千葉県文化財センター 1977 『東寺山石神遺跡』
 (財)千葉県文化財センター 1993 『沼南町北ノ作1・2号墳発掘調査報告書』
 (財)千葉県文化財センター 1997 『千原台ニュータウン7—草刈1号墳—』
 (財)千葉県文化財センター 1999 『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書4』
 (財)千葉県文化財センターほか 2001 『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書8—袖ヶ浦市椿古墳群—』
 (財)千葉県文化財センター 2012 『研究紀要27 古墳時代中期の房総—中期的要素の波及とその評価—』
 (財)千葉県教育振興財団 2011 『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書13—君津市鹿島台遺跡(B区)—』
 千葉県都市開発公社 1990 『佐倉市大作遺跡』(千葉県文化財センター編集)
 千葉市 1976 『千葉市史 史料編1』
 野田市 2005 『野田市史 資料編 考古』
 八咫教育委員会ほか 1975 『下総小川台古墳群』
 藤平裕子 1998 『塚原29号墳出土の鍔付き鉄剣』『君津郡市文化財センター研究紀要Ⅷ』(財)君津郡市文化財センター
 弁天古墳発掘調査団 1993 『柏市史調査研究報告—弁天古墳発掘調査報告書—』
 房総考古資料刊行会 1974 『市原市菊間遺跡』
 松戸市誌編纂委員会 1959 『松戸河原塚古墳』

東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究

東京都

扇塚古墳発掘調査団 2001『扇塚古墳発掘調査報告書』

小林理恵 1997「田端西台通遺跡出土の遺物について」『文化財研究紀要 第10集』東京都北区教育委員会

粕江市教育委員会 1992『弁天池遺跡』

杉山和徳・牛山英昭 2015「御殿前遺跡出土の鉄剣」『北区飛鳥山博物館研究報告 第17号』東京都北区教育委員会

内藤政光 1949「武蔵喜多見古墳発掘報告」『学習院史学会報 復刊第1号』（世田谷区史編さん室 1975『世田谷区史料 8 考古編』再録）

世田谷区教育委員会 2013『八幡塚古墳』

世田谷区教育委員会 1999『野毛大塚古墳』

(財)東京都埋蔵文化財センター 2002『多摩ニュータウン遺跡—No.200遺跡（2・3次）—』

松崎元樹 1997「世田谷区御嶽山古墳出土遺物の調査」『学習院大学史料館紀要 第九号』学習院大学史料館

神奈川県

厚木市教育委員会 1993『吾妻坂古墳』

神奈川県教育委員会 1988『神奈川県文化財調査報告書 第47集』

観福寺北遺跡発掘調査団 1997『観福寺北遺跡群閑耕地遺跡発掘調査報告書』

慶応出版社 1943『日吉矢上古墳』

玉川考古学研究所 2006『新羽南遺跡・新羽南古墳発掘調査報告書』

東海大学校地内遺跡調査団 1990『東海大学校地内遺跡調査団報告 1』

都市基盤整備公団 2003『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書 3』

日本窯業史研究所 1990『横浜市緑区虚空蔵山遺跡』

(株)盤古堂 2012『上ノ山遺跡群御茶屋通遺跡第3地点』

平塚市 1999「万田熊之台横穴群」『平塚市史 11上 別編考古(1)』

(財)ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 1992『調査研究集録 第9冊』

三田史学会 1953『日吉加瀬古墳』

横須賀市 2010『新横須賀市史 別編 考古』

横浜市域北部埋蔵文化財調査委員会調査団 1968『朝光寺原遺跡発掘調査略報（第1次 A 地区調査）』

吉田章一郎ほか 1975「神奈川県厚木市山ノ上 2号墳の調査」『青山史学 第4号』青山学院大学文学部史学科研究室

新潟県

三条市教育委員会 1989『保内山王山古墳群』

新潟県教育委員会 2010『一般国道116号和島バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 立野大谷製鉄遺跡 姥ヶ入製鉄遺跡 姥ヶ入南遺跡』

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 2002『黒田古墳群』

新潟大学考古学研究室 2001『新潟大学考古学研究室調査研究報告 3』

新潟市教育委員会 2001『八幡山遺跡発掘調査報告書』

橋本博文 2016「飯綱山65号墳」『六日町町史 資料編 第1巻』南魚沼市教育委員会

山梨県

上田三平 1930「銚子塚古墳 附丸山塚古墳」『史蹟調査報告 第5輯』

坂本美夫 1980「川久保古墳の出土遺物」『甲斐考古 17の1 通巻40号』山梨県考古史資料室

仁科義男 1931「大丸山古墳」『山梨県史蹟名勝天然記念物調査報告 第5輯』山梨県

林部光 1997 「中道町宮ノ上遺跡から出土した鉄剣をめぐる諸報告」『山梨県考古学会誌 第8号』山梨県考古学協会

北杜市教育委員会 2008 『頭無 A 遺跡』

八代町教育委員会 1995 『山梨県指定史跡岡・銚子塚古墳』

山梨県 1998 『山梨県史 資料編 1 原始・古代 1』

山梨県 1999 『山梨県史 資料編 2 原始・古代 2 考古（遺構・遺物）』

山梨県埋蔵文化財センター 1985 『八乙女塚古墳（馬乗山 1 号・2 号墳）・口開遺跡』

長野県

飯田市教育委員会 1972 『妙前大塚（3号）古墳—発掘調査報告書一』

飯田市教育委員会 1992 『八幡遺跡 物見塚古墳』

飯田市教育委員会 2001 『溝口の塚古墳』

飯田市教育委員会 2002 『月の木遺跡 月の木古墳群』

木島平村教育委員会 2002 『根塚遺跡』

諏訪市教育委員会 1988 『一時坂』

中野市教育委員会 1989 『七瀬古墳群 田麦中畝古墳群』

中野市教育委員会 2000 『高遠山古墳発掘調査概報』

長野県教育委員会ほか 1973 『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書—飯田地内その 2—』

長野県埋蔵文化財センターほか 1996 『大星山古墳群・北平 1 号墳』

長野県埋蔵文化財センターほか 1999 『村東山手遺跡』

(財)長野県埋蔵文化財センターほか 1999 『上信越自動車埋蔵文化財発掘調査報告書21—上田市内・坂城町内—』

(一財)長野県埋蔵文化財センターほか 2012 『濁り遺跡・久保田遺跡・西一里塚遺跡群』

(一財)長野県埋蔵文化財センター 2015 『西近津遺跡群』

(社)長野県史刊行会 1983 『長野県史 考古資料編 全 1 巻(3)主要遺跡（中・南信）』

長野市埋蔵文化財センター 1992 『篠ノ井遺跡群(4)』

藤森栄一・宮坂光昭 1965 「諏訪上社フネ古墳」『考古学集刊 第三巻第一号』東京考古学会

松本市教育委員会 1978 『弘法山古墳』

松本市教育委員会 2003 『長野県松本市桜ヶ丘古墳—再整理報告書一』

静岡県

浅羽町教育委員会 1993 『五ヶ山 B-1 号墳』

磐田市教育委員会 1973 『磐田市竹之内原古墳調査記録報告』

磐田市教育委員会 1995 『遠江堂山古墳』

磐田市教育委員会 2003 『県道浜松袋井線緊急地方道道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

磐田市教育委員会 2006 『新豊院山古墳群 D 地点の発掘調査』

掛川市教育委員会 1971 『高代山古墳群』

掛川市教育委員会 2002 『掛川市長谷土地区画整理用地内遺跡発掘調査報告書 I』

掛川市教育委員会 2003 『掛川市長谷土地区画整理用地内遺跡発掘調査報告書 II』

静岡県 1992 『静岡県史 資料編 3』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1997 『小笠山総合運動公園内遺跡群』

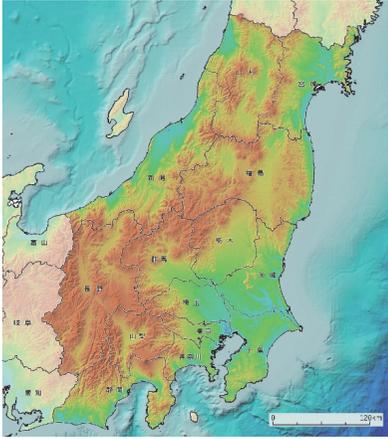
(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 2006 『森町円田丘陵の遺跡 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 森町-2』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008 『森町円田丘陵の古墳群 森町-3』

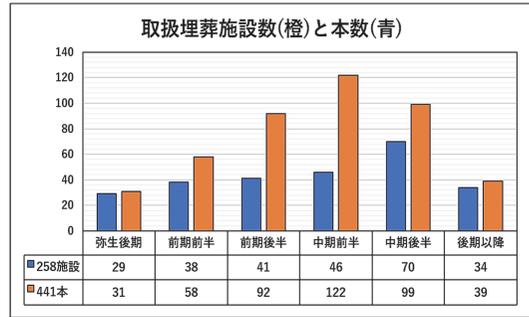
東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究

- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009『菊川市下平川の遺跡群』
- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010『富士山・愛鷹山山麓の古墳群』
- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 2011a『合代島丘陵の古墳群』
- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 2011b『助宗古窯群 寺島大谷遺跡 寺島大谷古墳』
- 静岡県文化財保存協会 1968「榛原町倉見原第3号墳調査報告」『東名高速道路（静岡県内工事）関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 静岡大学人文学部考古学研究室 2011『春林院古墳の研究』
- 島田市教育委員会 2017『市内遺跡発掘調査報告書』
- 豊岡村教育委員会 2000『大手内古墳群』
- 沼津市教育委員会 2012『高尾山古墳発掘調査報告書』
- 浜北市 2004『浜北市史 資料編原始古代中世』
- 浜北市教育委員会 1966『遠江赤門上古墳 浜北市史資料1』
- 浜北市教育委員会 1975『浜北市 史資料2 遠江内野古墳群』
- 浜松市教育委員会 1998『千人塚古墳 千人塚平宇藤坂古墳群』
- 袋井市教育委員会 2004a『愛野向山Ⅱ遺跡』
- 袋井市教育委員会 2004b『地藏ヶ谷古墳群・横穴群』
- 藤枝市 2007『藤枝市史 資料編1 考古』
- 藤枝市教育委員会ほか 1979『日本住宅公団藤枝地区埋蔵文化財発掘調査概報』
- 富士市教育委員会 1988『富士市の埋蔵文化財（古墳編）』
- 富士市教育委員会 2016『伝法中原古墳群』
- 御厨村郷土教育研究会 1939『松林山古墳発掘調査報告』（1975 静岡県文化財保存協会復刻）

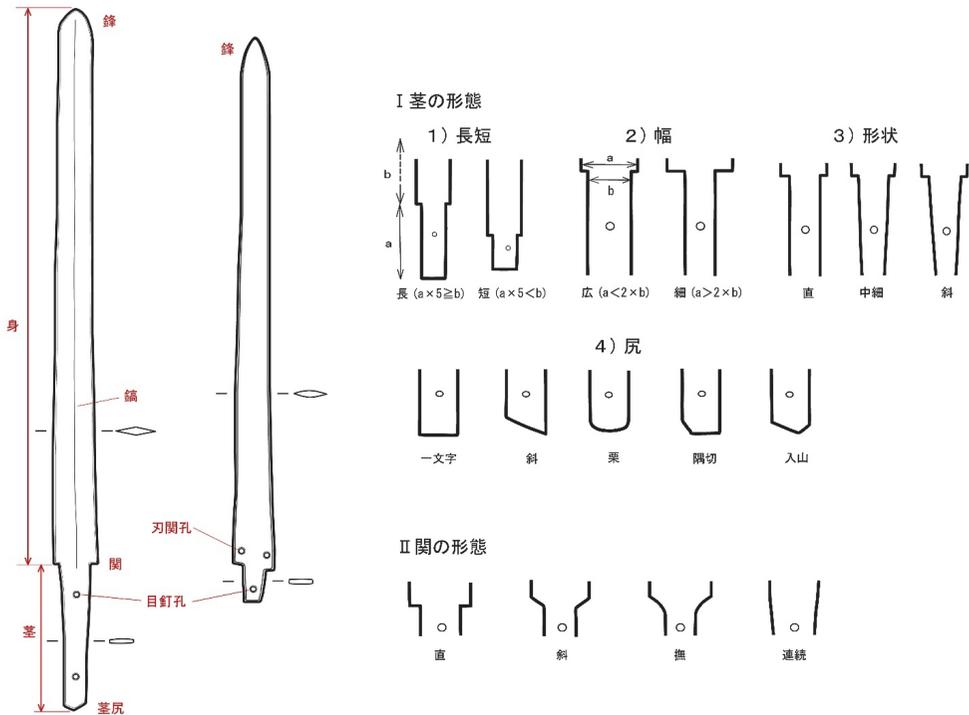
東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究 挿図・表



第1図 本稿での「東日本」の範囲

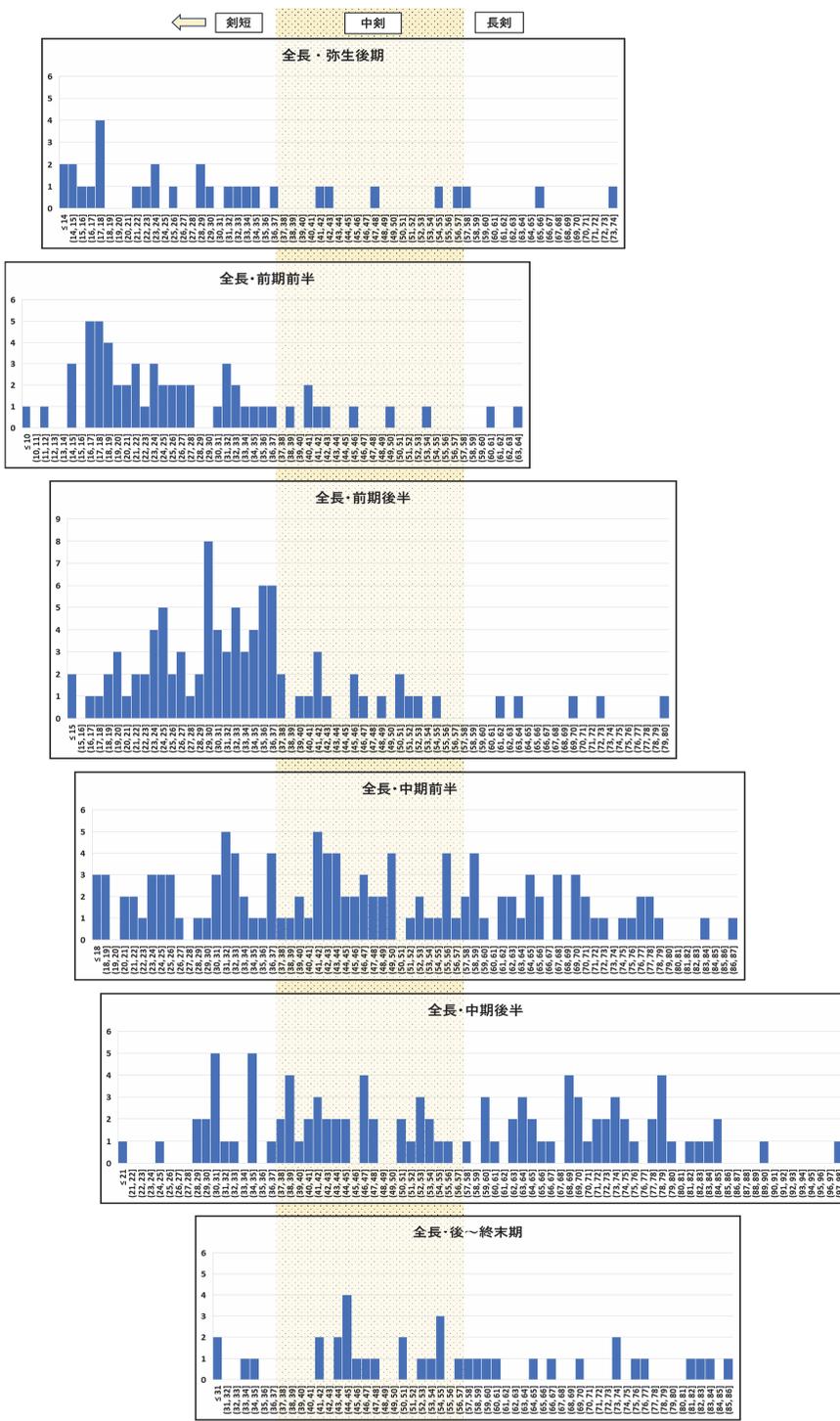


第2図 本稿で扱う鉄剣の出土遺構数と本数

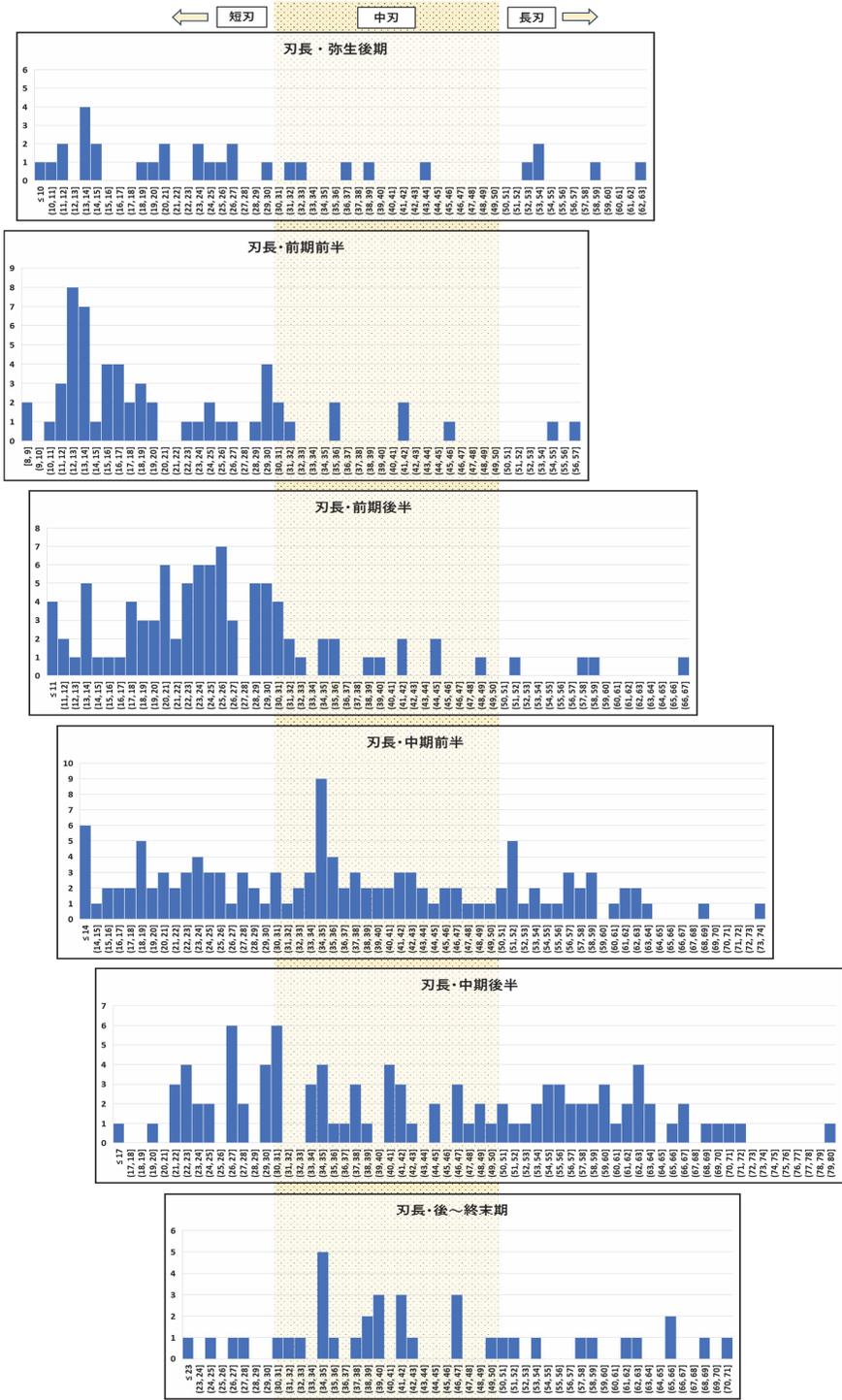


第3図 鉄剣各部の呼称(左)と茎の各形態の呼称(右)

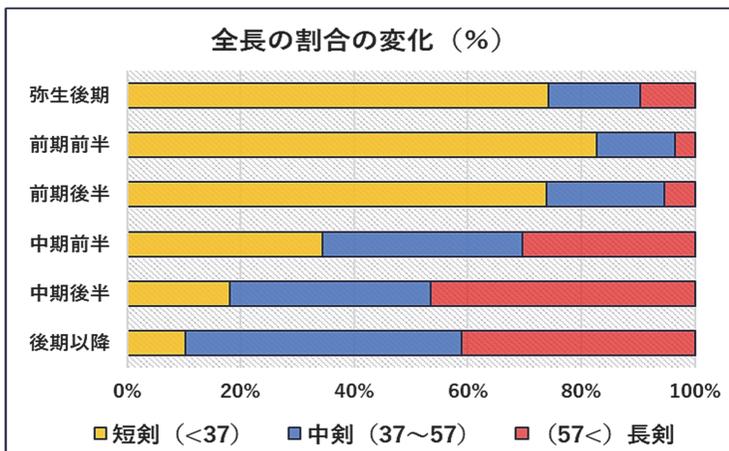
東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究



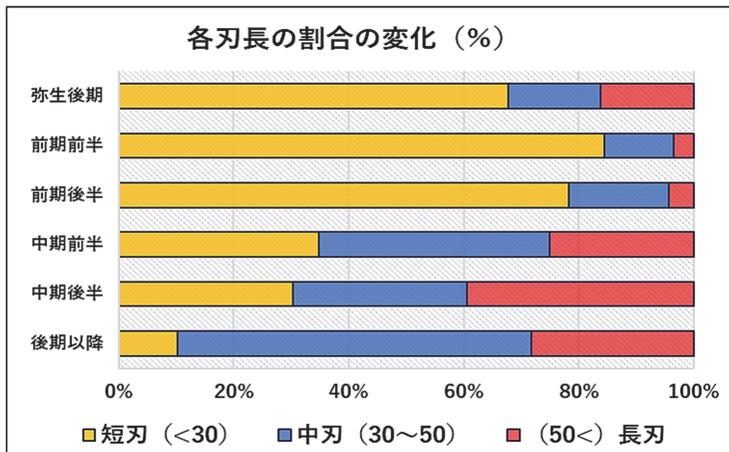
第4図 全長の推移



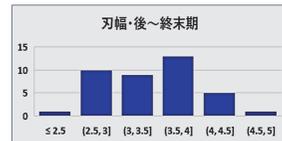
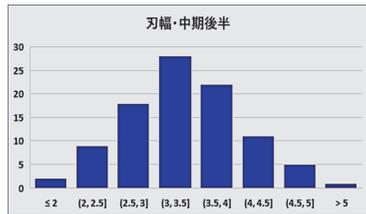
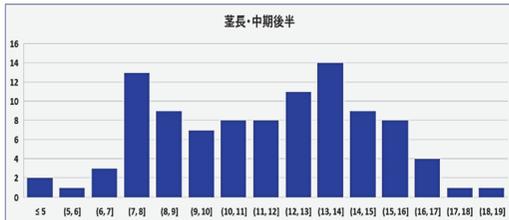
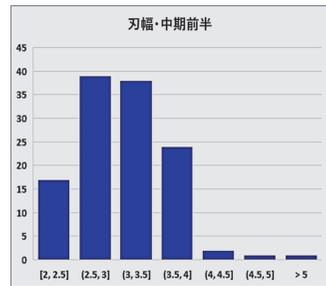
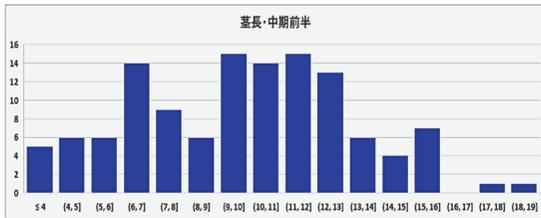
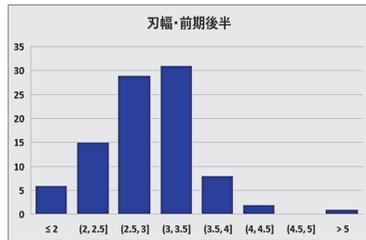
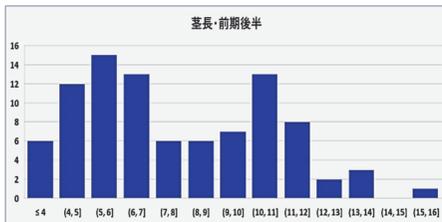
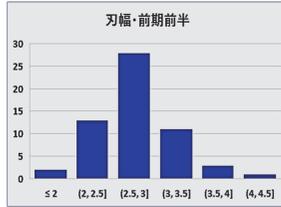
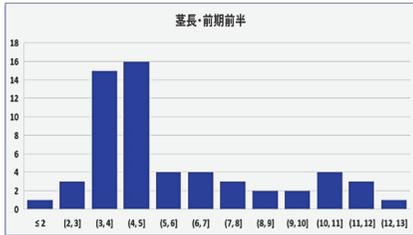
第5図 刃長の推移



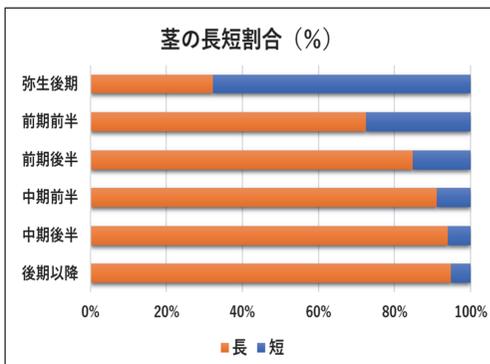
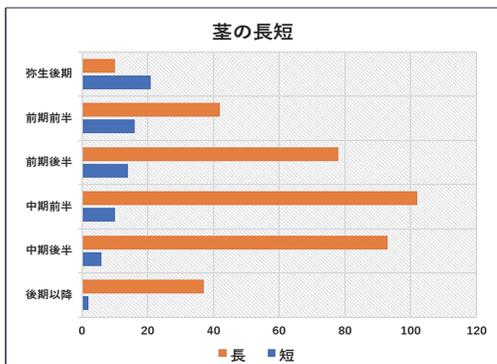
第6図 全長における長剣・中剣・短剣の比率の推移



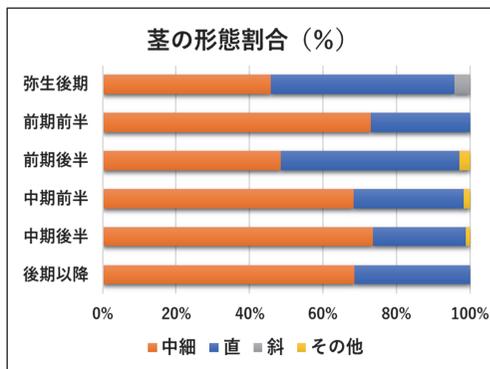
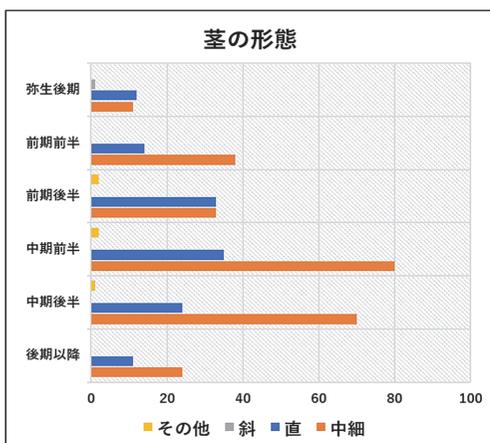
第7図 刃長における長刃・中刃・短刃の比率の推移



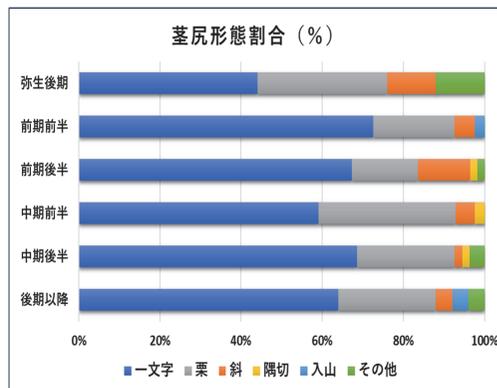
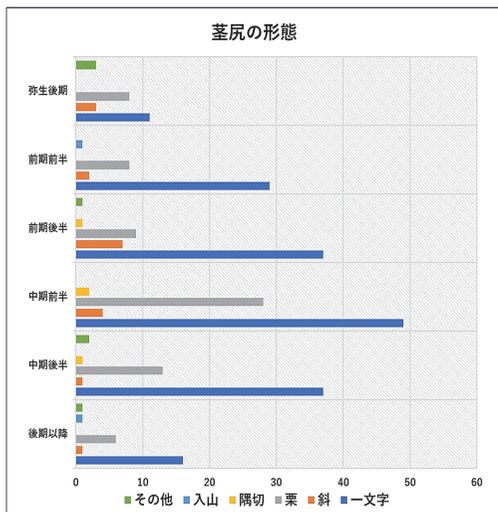
第8図 茎長（左）と刃幅の推移（右）



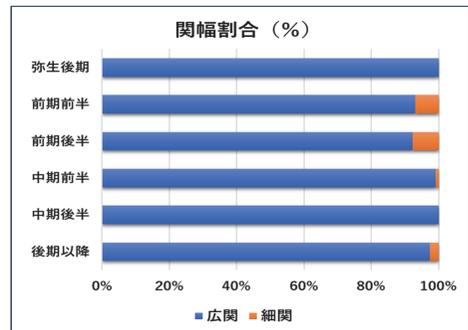
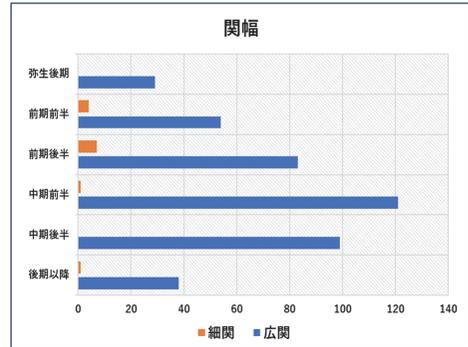
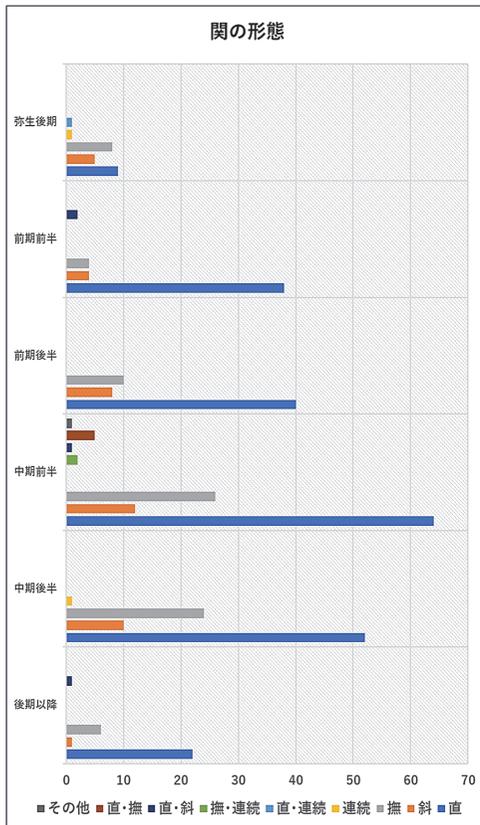
第9図 茎の長短 (左) とその割合の推移 (右)



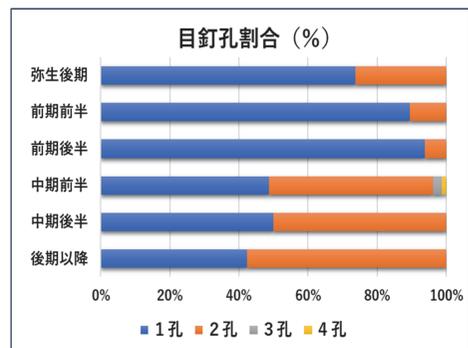
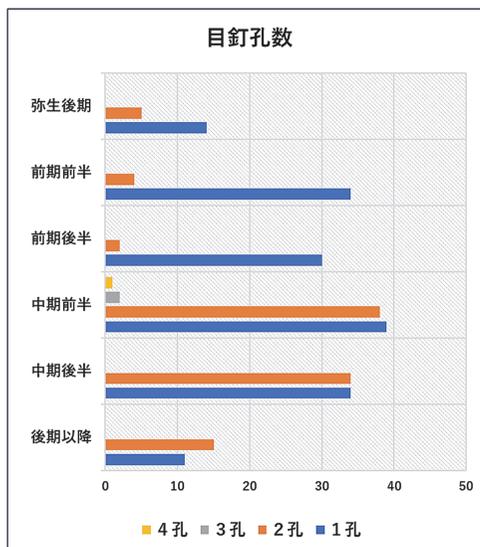
第10図 茎の形態 (左) とその割合の推移 (右)



第11図 茎尻の形態 (左) と割合の推移 (右)

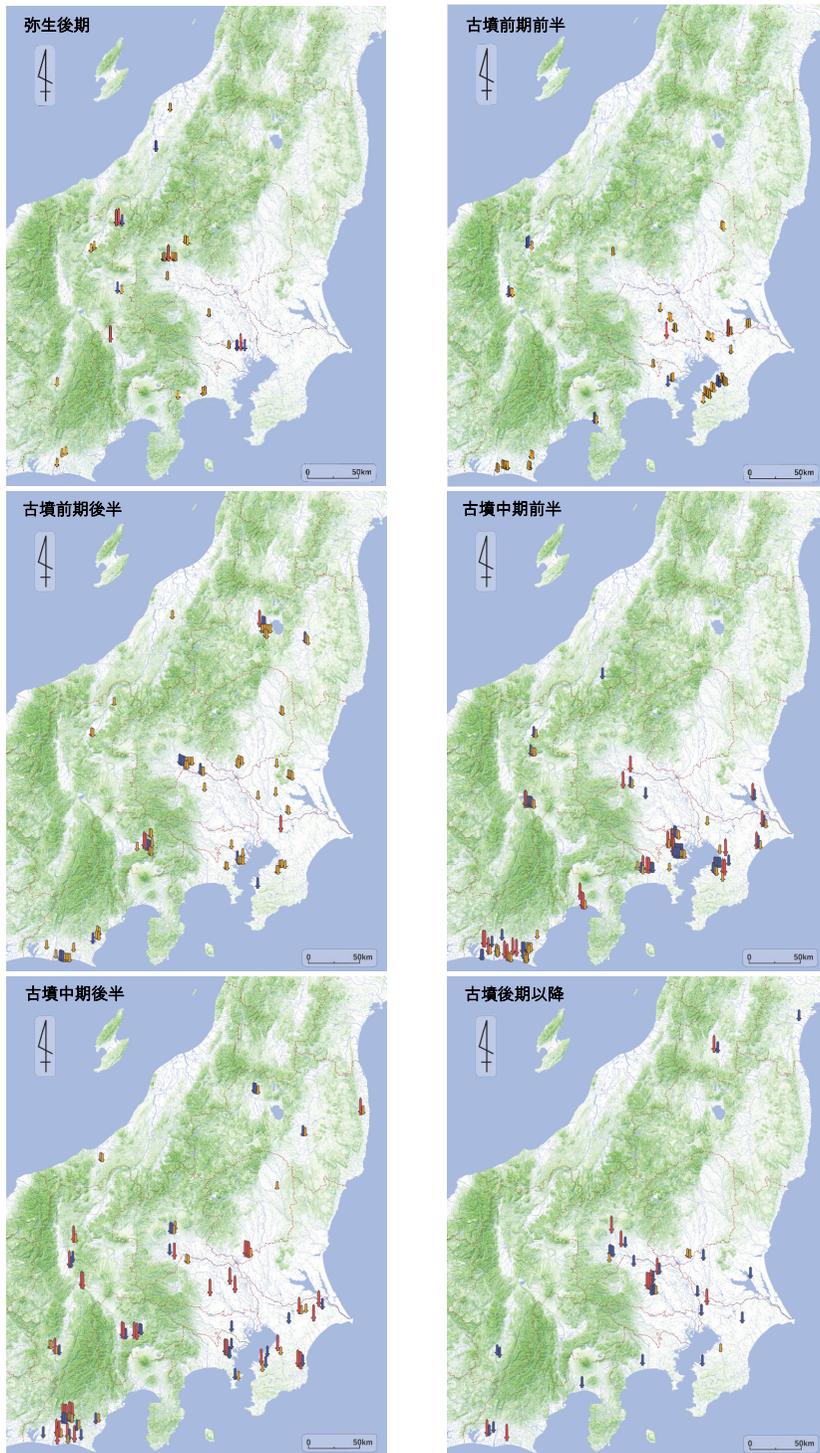


第 12 図 関の形態割合の推移 (左) と関幅の形態と割合の推移 (右)

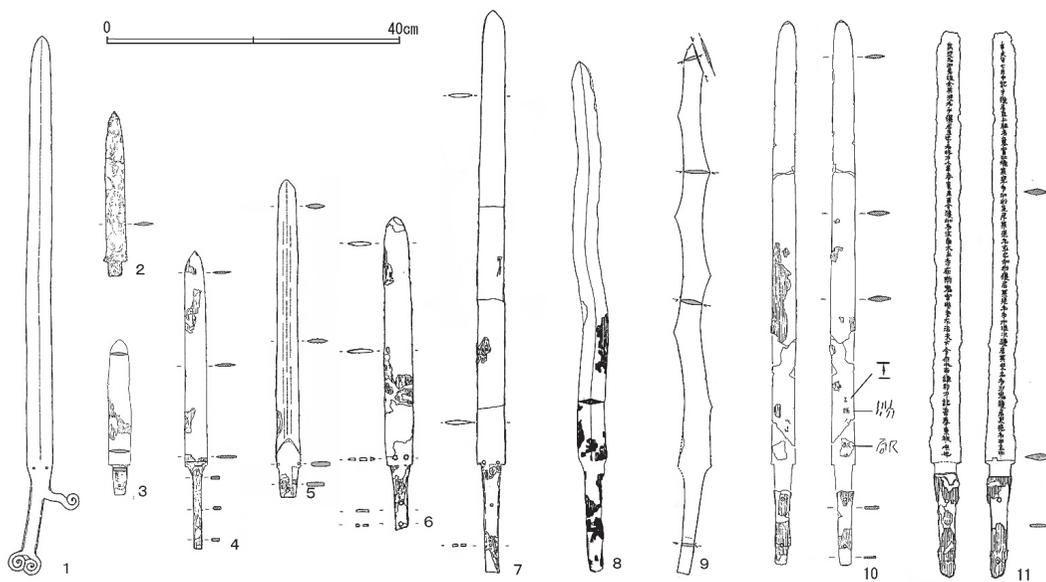


第 13 図 基尻の形態 (左) と割合の推移 (右)

東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究



第 14 図 副葬鉄剣の分布(赤：長刃、青：中刃、黄：短刃)



第15図 各時期の鉄剣と蛇行剣・象嵌剣（各文献、報告書から改変、転載）

【弥生後期】 1：根塚B区土壙墓？・剣2（豊島直博 2010 の復元図）、2：有馬 K134 墓・剣1（群馬県考古資料普及会 1990）

【古墳前期】 3：神門4号・剣1（田中新史 1977）、4：新豊院山2号・剣2（磐田市教育委員会 2006）、5：高尾山・槍1（沼津市教育委員会 2012）

【古墳中期】 6：吾妻坂2号主体部・剣1（厚木市教育委員会 1993）、7：間門松坂1号・剣1（静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010）、8：フネ・剣1（藤森栄一・宮坂光昭 1965）、9：桑57号・剣1（小山市教育委員会ほか 1972）、10：稲荷台1号・剣1・王賜剣（市原古墳群刊行会 2023）

【古墳後期以降】 11：稲荷山礫塚・剣1・辛亥剣（埼玉県教育委員会 1985）

※ 本図は形状がわかりやすいよう、オリジナルの実測図を改変（錆・木質等と思われる部分を削除）しているので、あくまでもイメージとして理解されたい。

東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究

第1表 副葬鉄剣集

弥生後期																																								
遺構名・埋葬施設	所在地	墳形	土葬	主体部形状	形別%	全長	刃長	刃幅	茎長	刃/茎	刃/幅	開端	刃形	形別	茎先	鑿	目釘	特徴	出土位置	報告書																				
石墓1号円内墓	群馬県沼田市	円形周溝墓	4.2	土墳墓	剣	17.7	14.7	3.3	3	4.9	短	短	中細?						側面か?	沼田市教育委員会1985																				
有長2号墓-SK41	群馬県渋川市			礫床土墳墓	剣	11.5	11.5	2.2	3.5	3.3	短	短	中細?	側?					側面か?	沼田市教育委員会1990																				
有長2号墓-SK45	群馬県渋川市			礫床土墳墓	剣	17.5	13.9	2.3	3.6	3.9	長	短	直	直			2	刃開孔1	側面	群馬県古資料刊行会1990																				
有長5号墓-SK85	群馬県渋川市	円形周溝墓	6.2	礫床土墳墓	剣	31.4	23.9	3.6	7.5	3.2	長	中細	直	直	斜			2	側内装輪口装具	側面	群馬県古資料刊行会1990																			
有長6号墓-SK440	群馬県渋川市	円形周溝墓	6.4	礫床土墳墓	剣	29.2	26.1	2.9	3.1	8.4	短	直	直	直	斜			1	側面	群馬県古資料刊行会1990																				
有長18号墓-SK134	群馬県渋川市			礫床土墳墓	剣	17.9	14.8	3	3.1	4.8	長	直	直	直	斜			1	側面	群馬県古資料刊行会1990																				
有長19号墓-SK111	群馬県渋川市			礫床土墳墓	剣	22	20.2	2.6	1.8	11.2	短	直	直	直				1	刃開孔	北側位なら右側面	群馬県古資料刊行会1990																			
有長19号墓-SK111	群馬県渋川市			礫床土墳墓	剣	54.7	53.2	3.1	5.9	16.2	短	直	直	斜				1	刃開孔	北側位なら右側面	群馬県古資料刊行会1990																			
有長19号墓-SK111	群馬県高崎市			礫床土墳墓	剣	15.8	13.7	3	2.1	6.5	短	直	中細?	斜					側面か?	高崎市教育委員会1989																				
有長2号4号方周墓	埼玉県松山町	方形周溝墓	187	土墳墓	剣	32.2	26.8	3.1	4.4	6.0	長	直	中細?	斜?				1	刃開孔2	東側位なら左側(脚側)?	宮島秀夫1992																			
田原西台遺2方周墓	東京都北区	方形周溝墓	9.2	土墳墓	剣	42.1	38.8	3.5	3.3	11.8	短	直	直	直				1	刃開孔	北側位なら右側面	小林重憲1997																			
御厨前1号方周墓	東京都北区	方形周溝墓	13	土墳墓	剣	26.9	23.7	3	2.9	8.6	短	直	直	直						左側面?	杉山和郎・山山高昭2015																			
丸山東4方周墓	東京都練馬区	方形周溝墓	10.5	土墳墓	剣	56.5	52.6	3.4	4.3	12.2	短	直	直	直	葉			2	刃開孔、側内装	主体部主軸と並行	杉山和郎・山山高昭2015																			
王子ノ台5号方周墓	東京都練馬区	方形周溝墓	10	土墳墓	剣	23.9	21	3.1	2.9	7.2	短	直	中細?							刃開孔1	北西側位なら左側面?	杉山和郎・山山高昭2015																		
真田・北山目SD2008	神奈川県平塚市	方形周溝墓	10	土墳墓	剣	25.8	23.2	3.2	2.6	8.9	短	直	直	直	葉				有	1	側面	東京大学大学院連環学際連携学部2000																		
新藤A遺跡5号方周墓	神奈川県平塚市	方形周溝墓	77	土墳墓	剣	23.6	20.7	3.1	3.6	5.9	短	直	直	直					2	刃開孔2	北側位なら左側面?	都市基盤整備公団2003																		
新藤B遺跡5号方周墓	神奈川県平塚市	方形周溝墓	11.1	木棺(土埋)	剣	34.3	29.7	2.8	4.6	6.5	短	直	中細	直	葉						茎先丸い	北側位なら左側面?	(株)鎌倉工2012																	
新藤C遺跡5号方周墓	新潟県新潟市	方形周溝墓	3.1	木棺(土埋)	剣	22.1	18.4	1.9	3.6	5.1	短	直	直	直	葉				有	1.7	刃開孔1	西側位なら左側面?	新潟市教育委員会2001																	
新藤D遺跡5号方周墓	新潟県長岡市	円形周溝墓	3.8	木棺(土埋)	剣	41.9	36.4	2.9	5.5	6.6	短	直	直	直	葉						茎大平欠く	東側位なら左側面付添	新潟県教育委員会2010																	
新藤E遺跡5号方周墓	山梨県北杜市	方形周溝墓	12.5	土墳墓	剣	65.5	62.4	3.7	3	20.8	短	直	斜	直					有	1	刃開孔1	左側面	北杜市教育委員会2008																	
根枝K4円内墓	長野県木島平村	円形周溝墓	6	木棺	剣	17.4	14.4	3.3	3.4	12.9	短	直	直	直						1	刃開孔2	右側面	木島平村教育委員会2002																	
根枝B区	長野県木島平村			土墳墓?	剣	58	53.2	3.6	4.8	11.1	短	直	中細?	直	葉					2	刃開孔2、跡見欠		木島平村教育委員会2002																	
西一里塚SM14	長野県佐久市	円形周溝墓	7	土墳墓	剣	33.3	31.1	3.1	2.2	14.1	短	直	中細	直							1	開の位置不齊	東側位なら高野付添か?	(財)長野県埋蔵文化財センターほか2012																
西三津塚M402	長野県佐久市	円形周溝墓	8.8	土墳墓(土埋)	剣	23.5	20.5	1.8	3	5.5	長	直	中細	直	直						1.7	茎先欠	西側位なら左側面付添	(財)長野県埋蔵文化財センター2015																
野田遺跡S027	長野県長野市	円形周溝墓	7.4	土墳墓	剣	16.5	13.4	2.4	3.1	4.3	長	直	中細	直	斜						1	刃開孔1	側面	長野県埋蔵文化財センター1992																
村山山平遺跡SM01(埋葬)	長野県長野市	石塚		石塚	剣	12.7	11.9	1.6	3.3	2.0	長	直	直	直							1	鑿上?	長野県埋蔵文化財センターほか1999																	
滝沢尻遺跡方周墓	長野県飯田市	方形周溝墓	9.5	土墳墓	剣	28.5	24.2	2.9	4.3	5.6	短	直	直	直						有	1	北側位なら頭部右側	長野県教育委員会ほか1973																	
文庫11区2号方周墓-SF23	静岡県静岡市	方形周溝墓	6.2	周溝内土埋?	剣	14.8	11.4	3.2	3.3	3.5	長	中細	直	直	葉						1	側面丸い、側内装付添	土墳墓	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2006																
文庫2区3号方周墓-SF76	静岡県静岡市	方形周溝墓	15.6	土墳墓	剣	28.2	25.6	3.2	2.7	9.5	短	直	中細	直	直							1	側面丸い、茎先丸い	西側位なら左側面	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2006															
穴元1地点SK7	静岡県静岡市			土墳墓	剣	17.7	13.5	2.3	4.1	3.3	長	直	中細	直	葉							1	跡欠	土塚部出土	沼田市教育委員会2003															
古墳前期前半																																								
遺構名・埋葬施設	所在地	墳形	土葬	主体部形状	形別%	全長	刃長	刃幅	茎長	刃/茎	刃/幅	開端	刃形	形別	茎先	鑿	目釘	特徴	出土位置	報告書																				
塚1号	茨城県稲敷郡	前方後方	38	木棺	剣	12	8.8	1.6	3.2	2.8	長	直	中細	直					有	1	茎片開端の跡	側面/側面?	厚島研究会1976																	
長塚39号	茨城県嶋崎市	方?	14	土墳墓?	剣	63.5	54.8	2.8	3.5	16.2	短	直	中細	直	斜?							有	1	跡欠、刃開孔2	(財)茨城県教育財団2002															
駒形大塚	栃木県那珂川町	前方後方	64	木棺(木炭土埋)	剣	35.6	29.6	3	6	4.9	長	直	直	直									2	足元	小川町教育委員会1986															
行幸田山1号	群馬県渋川市	方?	28	土墳墓	剣	22	13.8	2.1	8.2	2.7	長	直	直	直										1	茎丸い	北側位なら左側面	渋川市教育委員会1987													
井沢方9号方周墓	埼玉県さいたま市	方形周溝墓	10	土墳墓	剣	38.8	35.4	3.9	3.4	10.4	短	直	中細	直	直									有	1	刃開孔2	北側位なら左側面	浦和市教育委員会1994												
大久保保家町26方周墓	埼玉県さいたま市	方形周溝墓	13	不明	剣	26	18.2	3.6	7.8	2.3	長	直	中細	直										有?	1	側内装付添	不明	浦和市埋蔵文化財センター2006												
坂1号方周墓	埼玉県上尾市	方形周溝墓	8.5	土墳墓	剣	23.2	13.5	2.5	9.7	1.4	長	直	中細	直	直												1	茎丸い、跡見欠	上尾市遺跡調査会2014											
東郷跡地7号方周墓	埼玉県上尾市	方形周溝墓	8	土墳墓	剣	23.7	19	2.8	4.2	4.5	長	直	中細?																1	不明	上尾市教育委員会1978									
北通8号方周墓	埼玉県土見市	方形周溝墓	10.5	土墳墓	剣	61	56.6	4.2	4.4	12.9	短	直	中細	斜	開切?													1	開切?	富士見市遺跡調査会1987										
安楽寺1号方周墓	埼玉県鴻巣市	方形周溝墓	8.5	土墳墓	剣	30.5	23.9	2.6	10.5	1.9	長	直	中細	直														有	2	茎先欠	東側位なら右側面	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団2009								
栗久4号	千葉県袖ヶ浦市	方形周溝墓	13.4	木棺(土埋)	剣	13.6	12.2	2.8	4.1	3.0	長	直	直	直															1	柄上	(財)千葉県埋蔵文化財センター1996									
樽SX3	千葉県袖ヶ浦市	方?	19	木棺(土埋)	剣	17.6	13.6	2.8	4	3.4	長	直	中細	直															有	1	7	茎半分欠	右側面	(財)千葉県埋蔵文化財センターほか2001						
鹿島台SK015	千葉県君津市	土墳墓		木棺(土埋)	剣	25.1	22.4	2.7	2.7	8.3	短	直	中細	直	葉																1	跡丸味	北側位なら右側面	千葉県教育財団財団2011						
高部49号・第1主体部	千葉県東茨城郡	方形周溝墓	10.8	石塚(木炭土埋)	剣	28.4	13.4	2.4	5	2.7	長	直	中細	直																	1	体部	千葉県教育委員会2002							
高部32号	千葉県東茨城郡	前方後方	31.9	石塚(木炭土埋)	剣	27.6	16	2.2	11.6	1.4	長	直	直	直																	1	左側面	千葉県教育委員会2002							
高部30号	千葉県東茨城郡	前方後方	34.6	石塚(木炭土埋)	剣	26.7	12.9	2.4	3.7	3.5	長	直	中細	直																		1	右側面	千葉県教育委員会2002						
高部30号	千葉県東茨城郡	前方後方	34.6	石塚(木炭土埋)	剣	18.2	14	2.6	4.2	3.3	長	直	直	直																		1	跡・茎先僅欠	右側面	千葉県教育委員会2002					
長台台288号	千葉県原市	方形周溝墓	16.5	土墳墓	剣	14.4	11.2	2.6	3.2	3.5	長	直	中細	直																		1	茎先僅欠	左側面	上総関分台遺跡調査団1962					
加茂C1号	千葉県原市	方形周溝墓	19	不明	剣	20.6	17.4	2.4	3.4	5.7	短	直	中細	直																		有	1	周溝	上総関分台遺跡調査団1962					
神門5号	千葉県原市	前方後円	38.5	木棺(土埋)	剣	34.9	31.2	2.9	3.7	8.4	短	直	直	直	葉																		有	1	茎先丸い	田中新史1984				
神門3号	千葉県原市	前方後円	48	木棺(土埋)	剣	17.9	14.1	2.8	3.8	3.7	長	直	中細	直																					有	1	茎先丸い(開切?)	頭部上?	千葉県教育委員会1968a	
神門4号	千葉県原市	前方後円	49	木棺(土埋)	剣	31.2	26.6	3.4	4.6	5.8	短	直	中細	直																						有	2	香口式	右側面	
神門4号	千葉県原市	前方後円	49	木棺(土埋)	剣	21.4	17.3	3	4.1	4.2	長	直	中細	直																										

東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究

大墓山3号-第1石部	長野県長野市	円	16	石部	剣1	41.8	30.1	2.6	11.7	2.6	長	細	直	葉	有	1	基線長い	左脚部?	長野県埋蔵文化財センターほか1996
大墓山3号-第2石部	長野県長野市	円	16	石部	剣1	23.4	18	2.6	5.4	3.3	長	広	中細	直	有	1	鋒欠	右脚部?	長野県埋蔵文化財センターほか1996
根道遺方周墓-2号木棺	長野県木島平村	方	16	木棺	剣1	37	29	4	8.2	3.5	長	広	中細	直	有	1	鋒欠	不明	木島平町教育委員会2002
統合1号	静岡県藤枝市	方形周溝墓?	10.5	木棺(土埋)	剣1	37.7	26.4	3	11.3	2.3	長	広	中細	直	有	1	不明	副葬付?	静岡県教育委員会ほか1979
寺島大谷	静岡県藤枝市	方	16	木棺(土埋)	剣1	31.8	20.4	2.7	11.3	1.8	長	広	中細	直	有	1	折曲げられて副葬	副葬付?	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2011b
新王子12号	静岡県藤枝市	方	16	新形木棺(土埋)	剣1	25.4	18.7	2.7	6.7	2.8	長	広	中細	直	有	1	不明	不明	藤枝市2007
時ヶ谷五鬼免1号-東棺	静岡県藤枝市	円	20	榿床木棺	剣1	35.5	25.5	2.8	9.8	2.6	長	広	直	直	有	1	鋒欠	不明	藤枝市2007
坂山1号墳	静岡県島田市	方	19	木棺(土埋)	剣1	41.7	31	3.3	10.7	2.9	長	広	中細	直	葉?	1	基線長い	不明	高田町教育委員会2017
赤門上	静岡県浜松市	前方後円	56	新形木棺(土埋)	剣1	35.7	24.2	3.3	11.4	2.1	長	広	中細	直	葉	1	不明	右脚部?	浜北市教育委員会1966
藤林院	静岡県掛川市	円	30	結土部	剣1	35.8	24.7	3	11.1	2.2	長	細	直	直	葉?	1	基線長い	棺外か?	静岡大学人文学部考古学研究室2011
大寺内15号-第1埋葬	静岡県磐田市	方	15	新形木棺(土埋)	剣1	30.5	22.5	2.7	8	2.8	長	広	中細	直	葉	1	不明	棺外	豊岡村教育委員会2000
松林山	静岡県磐田市	前方後円	107	既六式石室	剣2	52	42	3.5	10	4.2	長	広	直	直	有	1	不明	副葬上方	磐田市郷土教育研究会1939
					剣2	50.2	44.5	4	5.7	7.8	短	広	直	直	有	1	不明	足下方	
					剣3	38	32	3.5	6	5.3	短	広	直	直	有	1	不明	足下方	
					剣4	28.2	23.3	3.5	5	4.7	長	広	中細	直	葉?	1	不明	足下方	
					剣5	32.5	24.8	4.4	6.7	3.7	長	広	中細	直	葉?	1	不明	足下方	
					剣6	32.5	28.5	3.5	4	7.1	短	広	直	直	有	1	不明	足下方	
					剣7	30.2	25.5	3	4.7	5.4	短	広	直	直	有	1	不明	足下方	

古墳中期前半

古墳名・埋葬施設	所在地	墳形	基軸長	主体部形	形%	全長	刃長	刀幅	茎長	刃/茎	茎/幅	四角	裏面	断面	基底	鋒	目釘	特徴	出土位置	報告書
公事塚	茨城県行方市	円	25.5	木棺(土埋)	剣1	68	43	3.1	15	2.9	長	広	中細	斜	有	2	基線長い	胴部左側?	茨城県教育委員会1989	
					剣2	84	69	3.5	15	4.6	長	広	中細	直	葉?	2	蛇行剣ではない?	棺外?		
遠藤山・A号石室	群馬県伊勢崎市	円	35	新形木棺(土埋)	剣1	77	61.8	3.8	15.2	4.1	長	広	直	直	葉	1	鋒-茎先丸み?	体部?	群馬県1981, 加部二生1995	
原田1号	埼玉県浦和市	円	23.5	不明	剣1	56	44	3.5	12	3.7	長	広	中細	斜	有	1	身欠-茎先欠	埋蔵土中	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団1984	
安光寺2号	埼玉県深谷市・黒瀬町	円	27	結土部	剣1	47.7	37.7	3.1	8	4.7	長	広	中細	直	葉	有	1	間は直と曲	胴部上方	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団1981
生野山古塚群-第2主体部	埼玉県本市	円	60	榿式石棺	剣1	66	52.5	3.5	13.5	3.9	長	広	中細	直	有	1	不明	左側側	野田町1964	
					剣2	33.5	25	3	8.5	2.9	長	直	直	有	1	不明	足元			
原川1号-第1主体部	千葉県市原市	円	35	木棺	剣1	24	19	2	5	3.8	長	広	中細	直	葉	有	2	不明	胴部上方?	(財)千葉県埋蔵文化財センター1997
原川1号-第2主体部	千葉県市原市	円	35	木棺	剣1	48.1	37.3	2.8	10.8	3.5	長	広	中細	直	有	1	基線く湾曲	西被葬者足元?	(財)千葉県埋蔵文化財センター1997	
					剣2	58.7	45.9	3.2	12.2	3.8	長	広	中細	直	葉	有	2	不明		東被葬者足元?
					剣3	46.3	36.1	2.7	10.2	3.5	長	広	中細	直	葉	有	2	基線湾曲		東被葬者足元?
					剣4	44.3	33.2	3.1	11.1	3.0	長	広	中細	直	葉	有	2	不明		東被葬者足元?
剣5	42.2	34.3	3.6	7.8	4.4	長	広	直	直	有	1	不明	間-茎大平欠	東被葬者胴部上方						
原川1号-第3主体部	千葉県市原市	円	35	木棺	剣1	52.3	42.3	2.9	10	4.2	長	広	中細	直	葉	有	2	不明	不明	(財)千葉県埋蔵文化財センター1997
					剣2	36.3	24.9	2.6	11.4	2.2	長	広	中細	直	葉	有	1	基線く湾曲	不明	
					剣3	42.8	31	2.8	11.8	2.6	長	広	中細	直	葉	有	1+?	茎欠	不明	
					剣4	37.2	27.5	2.8	8.7	2.8	長	広	中細?	直	有	?	茎欠	不明		
海保3号	千葉県市原市	円	29	土壌墓	剣1	74.2	62	3.9	12.2	5.1	短	広	中細?	斜?	1	不明	種に種状突起?	胴部上方	市原市教育委員会1968b	
剣2	67.7	58.3	3	9.4	6.2	短	広	中細	直	有	1	不明	不明	胴部上方						
剣3	57	42.2	3.6	15.4	2.7	長	広	中細	直	有	2	不明	不明	足部下方						
七屋塚-第3主体部	千葉県千葉市	円	54	木棺(結土埋)	剣1	30.8	22.5	2.3	8.3	2.7	長	広	直	直	有	1	不明	不明	千葉市1976	
石神2号	千葉県千葉市	円	25	結土部	剣1	62.7	51.3	3.2	11.4	4.5	長	広	中細	直	有	1	不明	不明	(財)千葉県埋蔵文化財センター1977	
井天	千葉県柏市	前方後円	35	木棺(土埋)	剣1	34.8	28.3	2.4	6.5	4.4	長	広	中細	直	有	2	不明	不明	井天古墳調査報告書1993	
瑞峰天神台・第1榿	千葉県香取市	円	29	木棺(結土埋)	剣1	35.8	26.3	2.7	9.5	2.8	長	広	直	直	有	1	不明	足部右下方?	渋谷隆平1978	
瑞峰天神台・第2榿	千葉県香取市	円	29	木棺(結土埋)	剣1	41.8	32	2.4	8.8	3.3	長	広	中細	直	有	1	不明	不明	渋谷隆平1978	
剣2	64.2	54.1	3.4	10	5.4	短	広	直	直	有	1	不明	不明	不明	不明					
小川台1号-第2主体部	千葉県横芝光町	円	30.5	土壌墓	剣1	63	51.5	3.5	11.5	4.5	長	広	直	直	有	1	不明	不明	八戸教育委員会ほか1975	
小川台1号-墳丘	千葉県横芝光町	円	30.5	土壌墓?	剣1	59	47	3.4	11	4.3	長	広	中細	直	有	1?	不明	不明	八戸教育委員会ほか1975	
剣2	31.3	21.5	2.7	9.8	2.2	長	広	直	直	入山?	1	不明	不明	不明						
剣1	62	49.5	3	12.5	4.0	長	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣2	63.7	51.7	3.3	12	4.3	長	広	中細	直	有	2	不明	不明	不明						
剣3	60	57.7	3.3	7.2	8.0	長	広	中細	直	有	1	不明	不明	不明						
剣4	49.4	41.3	2.8	8.4	4.9	長	広	直	直	有	2	不明	不明	不明						
剣1	29.2	23.5	2.5	5.7	4.1	長	広	中細	直	有	1	不明	不明	不明						
剣2	28.8	20.8	2.4	8	2.6	長	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣1	69.7	51	3.3	18.7	2.7	長	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣2	69.5	57.7	4	11.8	4.9	長	広	中細	直	有	1	不明	不明	不明						
剣3	55.7	45.2	3.5	10.9	4.1	長	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣1	49.4	39.4	2.5	10	3.9	長	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣2	42	35.8	3.8	6.2	5.8	短	広	中細	直	有	1	不明	不明	不明						
剣3	39.4	34.2	3.8	5.2	6.6	短	広	中細	直	有	1	不明	不明	不明						
剣4	42.1	35.6	4	6.5	5.5	短	広	中細	直	有	1	不明	不明	不明						
剣5	39.8	33.5	3.8	6.3	5.3	短	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣6	41.9	34.3	3.7	7.6	4.5	長	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣7	41.2	34.2	3.3	7	4.9	長	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣8	45.3	33.9	3.8	11.4	3.0	長	広	中細	直	有	3	不明	不明	不明						
剣9	40.7	34.1	3.5	6.6	5.2	短	広	直	直	有	2	不明	不明	不明						
剣10	36.2	25.3	3.3	10.9	2.3	長	広	直	直	有	2	不明	不明	不明						
剣11	32.9	26	3	6.9	3.8	長	広	中細	直	有	1	不明	不明	不明						
剣12	32.5	23	3.2	8.5	2.4	長	広	中細	斜	有	4	不明	不明	不明						
剣13	31	27.5	2.7	3.5	7.9	短	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣1	68	54	3.2	14	8.9	長	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
剣2	44	33	3.6	11	3.0	長	広	直	直	有	1	不明	不明	不明						
虚左衛門山・第1主体部	神奈川県横浜市	円	35	木棺	剣1	30.5	20.5	3.3	10	2.1	長	広	中細	斜	斜	1	不明	不明	日本学術振興会1990	
山ノ上2号	神奈川県厚木市	方周	16	木棺(土埋)	剣1	21.6	18.3	2.2	3.5	5.5	短	広	直	直	有	1	不明	不明	菅田一雄ほか1975	
香妻坂・1号主体部	神奈川県厚木市	円	55	木棺(土埋)	剣1	46.1	34.4	3	11.7	2.9	長	広	中細	直	葉	1	不明	不明	厚木市教育委員会1993	
剣2	69.2	56.6	3.2	12.6	4.5	長	広	直	直	有	2	不明	不明	不明						
剣1	43.4	34.3	4.8	9.1	3.8	長	広	直	直	有	2	不明	不明	不明						
剣2	77.4	62.4	4.2	15	4.2	長	広	中細	直	葉	2	不明	不明	不明						
剣3	57.1	43.3	2.6	13.9	3.1	長	広	中細	直	有	2	不明	不明	不明						
剣4	49.5	37.5	2.8	12	3.1	長	広	中細	直	有	2	不明	不明	不明						
香妻坂・2号主体部	神奈川県厚木市	円	55	木棺(土埋)	剣1	55.6	40.4	4	15.2	2.7	長	広	中細	直	葉	2	不明	不明	厚木市教育委員会1993	
香妻坂・墳丘	神奈川県厚木市	円	55</																	

丸山塚	山梨県甲府市	円	72	竪穴式石室	例1 22.7 16 2.8 6.7 2.4 長 広 中継 直・斜?		2	墓先欠		上田三平1930	
大塚山1号・第1石塚	長野県長野市	方	187	石塚	例1 43.2 34.8 3 8.4 4.1 長 広 中継 直 葉			汎用?		長野県埋蔵文化財センターせまほか1996	
大塚山4号	長野県長野市	方	17	石塚	例1 25.4 19.6 2.5 6.2 3.2 長 広 中継 直 葉		1	墓目釘部分で欠損	石塚側?	長野県埋蔵文化財センターせまほか1996	
東平1号	長野県坂城町	円	17	木棺(土壌)	例1 49 36.1 3.4 12.9 2.8 長 広 中継 直 一 有 3					(財)長野県埋蔵文化財センターほか1999	
					例2 42.7 29.4 3.4 12.9 2.3 長 広 中継 直 一 有 2						
					例3 41.1 30.8 3.5 10.3 3.0 長 広 中継 直 一 有 2						
					例4 25.3 15.2 3 10.1 1.5 長 広 中継 斜 一 有 1						
フネ	長野県諏訪市	方?	207	木棺(粘土層)	例1 72.5 57 4 15.5 3.7 長 広 直 葉 入山?	有	2	蛇行割		藤森栄一 宮坂光昭1965	
					例2 71 59 3.7 12 4.9 長 広 中継 直 一 有 1						
					例3 59 48.8 3.1 10.2 4.8 長 広 中継 斜 隣切	有	2				
					例4 59 46.5 3 12.5 3.7 長 広 中継 直 葉	有	2				
					例5 58.5 48 3 10.5 4.6 長 広 中継 直・隣 隣切	有	2				
					例6 49.5 39 3 10.5 3.7 長 広 中継 直・隣 一 有			鋒溝曲			
					例7 54 41.5 3.2 12.5 3.7 長 広 中継 直 葉	有	2	鋒溝曲			
					例8 37 30.2 2.8 6.8 4.4 長 広 中継 斜?						
					例9 29 23.3 2.3 10.6 2.2 長 広 中継 直?						
					例10 25 25 2.8 10 2.3 長 細 直 葉				墓細い		
新王子1号・1号棺	静岡県藤枝市	円	18	木棺(粘土層)	例1 54.1 44.6 3.2 9.5 4.7 長 広 中継 直 一 2			左体一跡側?	藤枝市2007		
八幡ヶ谷・1号棺	静岡県菊川市	円	25	***埋蔵文化財	例1 46.2 34.3 3.6 11.9 2.9 長 広 直 直 一 2				右体側	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2009	
					例2 23.1 17.3 2.6 5.8 3.0 長 広 直 直				頭部左上方		
					例4 18.8 13.6 2.8 5.2 2.6 長 広 直 直 一?	1			頭部左		
					例5 17.7 13.4 2.4 4.3 3.7 長 広 中継 直 一 1				頭部左		
					例6 24.1 15.3 2.9 5.8 3.2 長 広 中継 隣?	一	1		足右下方		
					例7 18.4 14.7 2.6 3.7 4.0 長 広 中継 直 入山?	1			足右下方		
					例8 18.6 13.8 2.3 4.8 2.9 長 広 中継 直 葉	1			足右下方		
					例9 63 40.4 3.1 12.6 3.2 長 広 中継 直 一 2				左頭部		
八幡ヶ谷・2号棺	静岡県菊川市	円	25	***埋蔵文化財	例1 24.8 19.8 2.8 5 4.0 長 広 中継 直 一 1				頭部左上方	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2009	
					例2 24.8 19.8 2.8 5 4.0 長 広 中継 直 一 1				頭部左上方		
					例3 24.7 18.2 3.2 6.5 2.8 長 広 中継 直 一 1				頭部左上方		
					例4 20.6 16.2 2.6 4.4 3.7 長 広 直 直 葉	1			頭部左上方		
					例5 17.7 13.9 2.2 3.8 3.7 長 広 中継 直	1			頭部左上方		
					例6 17.1 13.6 2.5 3.5 3.9 長 広 中継 直 一				頭部左上方		
薬師塚	静岡県富士市	円	17	木棺(粘土層)	例1 31.5 23.5 2.9 8 2.9 長 広 中継 直 一					富士市教育委員会1988	
					例2 65.5 53.5 3.3 12 4.5 長 広 中継 直						
間門松沢1号	静岡県富士市	方?	25	***埋蔵文化財	例1 77.6 63.6 3.9 14 4.5 長 広 中継 直 一 2			刃部双孔	左側か	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2010	
文殊堂12号・第1埋葬	静岡県森町	円	20	木棺(土壌)	例1 52.3 39 3.1 22.3 3.2 長 広 中継 直 一 2			全体縦く湾曲	石塚側か	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2008	
内野二木谷横石塚1号	静岡県浜松市	円	13.5	土塚墓か?	例1 86.7 73.5 5.6 13.2 5.6 長 広 中継 直 葉				1	骨木な作り	浜北市教育委員会1975
					例2 76 58.9 3.6 17.1 3.4 長 広 中継 直 一						
神明社上1号・1号棺	静岡県浜松市	円	25	木棺(土壌)	例1 47.8 39.3 2.6 9.8 4.0 長 広 中継 直 隣?	有		墓中軸外れる	右頭部?棺上?	浜北市2004	
千人塚・第2主体部	静岡県浜松市	遺出付円	37	***埋蔵文化財	例1 71.1 56.8 2.4 14.3 4.0 長 広 中継 直 一 2				墓湾曲	左体一側側	浜松市教育委員会1998
					例2 38.8 27.8 3.8 9 3.1 長 広 直 直 一 1						
高山山3号	静岡県掛川市	円	10	箱式石塚	例1 64.5 51.5 3.4 13 4.0 長 広 中継 直 葉				1	左体側	掛川市教育委員会1971
遠照神社3号墳	静岡県掛川市	遺出付円	38	木棺(土壌)	例1 70.7 55.3 4.1 15.4 3.6 長 広 中継 直 斜 2?				2?	骨木な作り	掛川市教育委員会2003
雲山・1号棺	静岡県磐田市	前方後円	110	埴輪塚	例1 38.8 28.1 3.6 10.7 2.6 長 広 中継 直 一 2				刀部縦く湾曲	埴輪塚土壌内	磐田市教育委員会1995
					例2 33.5 24.5 3.6 9 2.7 長 広 直 直 一 2						
					例3 26.5 20.5 3 6 3.4 長 広 特殊 斜 葉?				2	墓先肥厚	
					例4 26 19 3.2 7 2.7 長 広 中継 直 葉				2		
					例5 24 17.3 3.2 6.7 2.6 長 広 直 直 一 1						
					例6 21.2 16.2 2.4 5 3.2 長 広 中継 直 一 1						
					例7 20.7 13.5 2.8 7.2 1.9 長 広 直 斜 葉	2			2	刃部双孔	
五ヶ山B-1号・第1主体部	静岡県袋井市	円	22	***埋蔵文化財	例1 77 61 3.8 16 3.8 長 広 中継 直・隣 一				墓湾曲	右頭部	袋井町教育委員会1993
五ヶ山B-1号・第2主体部	静岡県袋井市	円	22	***埋蔵文化財	例1 79 63 4 16 3.9 長 広 直 直・隣 一			1-?	墓欠損	左体側	袋井町教育委員会1993
					例2 32 24 2.5 8 3.0 長 広 直 直・隣? 斜						
					例3 33 26 2.6 7 3.7 長 広 直 直・隣? 斜						
					例4 31.2 21.5 2.4 9.7 2.2 長 広 中継 斜						

古墳中期後半

古墳名・埋葬施設	所在地	墳形	主軸	主体部形態	全長	刃長	刃幅	墓長	刃/墓	墓長/刃	間幅	蓋形	蓋形	墓況	備	特徴	出土位置	報告書				
灰塚山古墳	福島県多喜町	前方後円	61.2	箱式石塚	例1 51 37 4 14 2.6 長 広 中継 直 一 2												墓上	鎌山岡 (辻秀人編) 2023				
					例2 54.9 42.5 3 12.4 3.4 長 広 中継 直 葉														右体側			
					例3 39.8 30.3 2.7 9.5 3.2 長 広 中継 直 斜														頭部左上方			
仏坊12号・須丘外石塚	福島県須賀川市	円	15	箱式石塚	例1 50.5 38 3.1 12.5 3.0 長 広 中継 直 一 有 2											右体一側側	須賀川市教育委員会1998					
上の原3号・1号石塚	福島県浪江町	円	20	箱式石塚	例2 29.5 22.4 2.1 7.2 3.1 長 広 中継 直 一 有 1											左側直石に挟まれ出土	須賀川市教育委員会1998					
上の原3号・1号石塚	福島県浪江町	円	20	箱式石塚	例1 80 63.3 16.7 3.8 長 広 直 直 隣切?										1?		左体側	伊東康雄1979				
野原2号・1号土塚	栃木県大田原市	円	22	土塚墓	例1 84.8 68.5 4.3 16.4 4.2 長 広 直 直 一												墓の可能性高い	右体側	日本考古学研究所1978			
鳥57号	栃木県小山町	遺出付円	32	粘土層	例1 41 30.6 3.2 10.4 2.9 長 広 中継 斜 一													鋒鋭い	小山町教委ほか1972			
					例2 37 27.5 2.5 9.5 2.9 長 広 直 直 隣?															右頭部		
					例3 41.3 30.3 3.1 11.3 2.7 長 広 直 斜															右体側		
					例4 69 55 3.6 14 3.9 長 広 中継 直 一 有															蛇行割		
万福寺1号・第1主体部	群馬県高崎市	円	21	土塚墓	例1 56 44.4 3.5 11.6 3.8 長 広 中継 直 一 2											墓湾曲	頭部左一左体側	高崎市埋蔵文化財調査委員会1983				
萬壽二子山	群馬県高崎市	前方後円	115	船形石塚	例1 59.9 53.7 3.1 6.2 8.7 短 広 直 直 隣切												不明	高崎市1999, 加部二生1995				
金井丸山	群馬県流山市	不明	不明	箱式石塚	例1 38.6 29.2 3.2 9.4 3.1 長 広 中継 直 一 1													鋒三角	左側側	赤川市教育委員会1978		
					例2 59.3 47.8 3.3 11.5 4.2 長 広 中継 直 一 1														鋒鋭い		墓湾曲	左側側
					例3 54 41.6 3.5 12.4 3.4 長 広 中継 直 一 1																鋒片側倒斜的	左側側
半田南原25号	群馬県流山市	円	10.6	磯形	例1 29 20.6 2.7 11.6 2.3 長 広 直 直 一 1												墓先長い	左側側傾立掛	赤川市教育委員会1994			
稲荷前心区・1号土塚墓	埼玉県坂本町	円	115	土塚墓	例1 63.5 69.5 3.7 14 5.0 長 広 直 直 一 2												墓やや短い	汎用状態で崩壊か	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団1994			
八幡山	埼玉県本庄市	円	40	箱式石塚	例1 35 27 3 8 3.4 長 広 中継 直 一?														不明	本庄市教育委員会2006		
					例2 20.5 16.2 2.1 4.3 3.8 長 広 中継 直 一?																	不明
桶山1号	埼玉県蓮田市	円	9.6	土塚墓	例1 69.5 55 4.3 14.5 3.8 長 広 中継 直 一 2														右頭部一側側?	蓮田市教育委員会1989		
神木2遺跡・第107号土塚	埼玉県久喜市	円	37	土塚墓	例1 64.3 50.2 3.8 14.1 3.6 長 広 中継 直 一 有 2														埋葬者体部上?	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団2008		
八重原3号	千葉県津市	円	37.2	木塚	例1 29.5 21.6 4.2 7.9 2.7 長 広 中継 直 一 2														墓先欠	古墳時代研究会1989		
肥田3号	千葉県袖浦市	円	15	木塚	例1 46.7 37.3 2.6 10.4 3.6 長 広 中継 直 一															(財)若津市文化財センター1996		
熊野台2号・第1主体部	千葉県木更津市	円	18	木塚	例1 69.5 45.2 3.4 14.3 3.9 長 広 中継 直 葉														鋒欠	右体側?	(財)若津市文化財センターほか1986	

東日本の弥生墳墓と古墳に副葬された鉄剣身の基礎的研究

調査番号	古墳名	所在地	墳形	築期	主体部形状	幅	全高	刃長	刀幅	茎長	刀茎	幅	厚	重量	用途	副葬品	調査機関	備考	
西原作2号墳群・第1号	千葉県水戸市	円	19	木棺(土埴)	剣1	47.8	40.8	3.3	7	5.8	短	広	中	直	無	1	2	身中央僅欠	根外 (財)津浦郡文化財センターほか1992
六所王遺跡・24号土埴墓	千葉県市原市	円	28	木棺(土埴)	剣1	40.8	29.4	3.4	11.4	2.6	長	広	中	直	無	1	2	柄目の目で切上	(財)市原市文化財センター1997
稲荷台1号・中央施設	千葉県市原市	円	28	木棺	剣1	77.7	59.5	3.3	13.5	4.4	長	広	中	直	無	1	2	額象坂王賜銘	財)川文堂1988、市原古墳群研究会2023
台方宮作1号・第1主体部	千葉県成田市	円	25	木棺(土埴)	剣1	74	60	3.6	14	4.3	長	直	直	直	無	1	2	右側面?	(財)印旛郡市文化財センター 2011 a
台方宮作1号・第2主体部	千葉県成田市	円	25	木棺(土埴)	剣1	34.6	26.5	1.5	7.8	2.4	長	直	直	直	無	1	1	僅欠	(財)印旛郡市文化財センター 2011 a
船形手塚1号・第1主体部	千葉県成田市	円	25	木棺	剣1	35	23.9	2.4	11.1	2.2	長	広	中	直	無	1	2	墓長い	(財)印旛郡市文化財センター 2011 b
大作1号	千葉県佐倉市	円	10	木棺	剣1	44.6	34.3	2.9	10.3	3.3	長	広	中	直	無	1	2	額・茎先欠	千葉県市開発公社1990
大戸宮作1号	千葉県香取市	方?	19	木棺(土埴)	剣1	57.6	48.3	3.2	9	5.4	短	広	中	直	無	1	2	無	佐原市教育委員会1988
大戸宮作2号	千葉県香取市	方?	11	木棺(土埴)	剣1	65.8	55.8	3.4	10	5.6	短	広	中	直	無	1	2	無	佐原市教育委員会1989
浅間山1号・第1主体部	千葉県船橋市	円	27	木棺(輪土埴)	剣1	53	41	3.2	12	3.4	長	直	直	直	無	1	2	右側面	浅間山1号墳発掘調査報告 1975
浅間山1号・第2主体部	千葉県船橋市	円	27	木棺	剣1	78	63	3.8	15	4.2	長	直	直	直	無	1	2	右側面	浅間山1号墳発掘調査報告 1975
浅間山1号・墳丘中	千葉県船橋市	円	27	木棺	剣1	64.5	77.5	4.3	13	6.5	短	広	直	直	無	1	2	左側面	浅間山1号墳発掘調査報告 1975
多石台No.3-4号・第1主体部	千葉県香取市	円	34	木棺(土埴)	剣1	97.6	89	5.7	17.6	4.5	長	直	中	直	無	1	2	茎先欠	浅間山1号墳発掘調査報告 1975
多石台No.3-4号・第2主体部	千葉県香取市	円	34	木棺(土埴)	剣1	71.9	62.2	4.3	16.7	2.7	長	直	中	直	無	1	2	茎先少々欠	(財)香取郡市文化財センター 2002
八幡塚・北主体部	東京都世田谷区	横立	34	木棺	剣1	43.2	35	4	8.2	4.3	長	直	直	直	無	1	2	僅?	世田谷区教育委員会2013
日吉矢上	神奈川県横浜	円	23	木棺(輪土埴)	剣1	53	41	4	12	3.4	長	直	中	直	無	1	2	僅欠	財)出版1943
日光寺原1号	神奈川県横浜	円	37	木棺(輪土埴)	剣1	43.9	35	3.6	9	3.9	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	横浜市城北部埋蔵文化財調査委員会調査報告1968
長沢1号・第1主体部	神奈川県横浜	遺出付円	22	木棺(土埴)	剣1	46.7	39	3	7.8	5.0	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	横浜市2010
長沢1号・第2主体部	神奈川県横浜	遺出付円	22	木棺(土埴)	剣1	78.8	62.9	4.7	15.9	4.0	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	横浜市2010
黒田2号・第1主体部	新潟県上越市	円	20	木棺(土埴)	剣1	68.6	54.7	4.1	13.9	3.9	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業調査報告2002
黒田2号・第2主体部	新潟県上越市	円	20	木棺(土埴)	剣1	35	26.3	2.8	8	2.3	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業調査報告2002
黒田古墳群・木棺墓	新潟県上越市	円	20	木棺(土埴)	剣1	30.6	22.6	1.6	8	2.6	長	直	直	直	無	1	2	1身が消滅する	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業調査報告2002
馬塚山1号	山梨県笛吹市	円	13	石式石棺	剣1	63.2	50	3.4	13.2	3.8	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	山梨県埋蔵文化財センター1985
狐塚	山梨県笛吹市	横立	26	不明	剣1	72	58	3.3	14	4.1	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	山梨県1998
川久保	山梨県笛吹市	不明	不明	不明	剣1	42	32.5	2.8	8.5	3.9	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	坂本美夫1980
王塚	山梨県中央市	横立	61	合掌石室	剣2	78.2	62.8	3.7	14.4	4.4	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	山梨県1999
七瀬5号・第1主体部	長野県中野市	円	20	木棺(土埴)	剣1	54	41	3.4	13	3.2	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	中野市教育委員会1989
桜ヶ丘古墳・主室	長野県松本市	円	30	竪穴石室	剣1	66.4	53	3.4	13.4	4.0	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	松本市教育委員会2003
桜ヶ丘古墳・副室	長野県松本市	円	30	竪穴石室	剣2	62.2	46.9	3	15.3	3.1	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	松本市教育委員会2003
安原御草塚・1号石室墓	長野県筑北村	方	10	竪穴石室	剣1	46.8	33.5	3.2	13.3	2.5	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(社)長野県史学会1983
新井原12号	長野県飯田市	横立	36	竪穴石室	剣1	63.8	50.8	3.3	13	3.9	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(社)長野県史学会1983
溝口の塚	長野県飯田市	前方後円	48	竪穴石室	剣2	25	20	2.8	5	4.0	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	飯田市教育委員会2001
物見塚	長野県飯田市	円	30	竪穴石室	剣1	51.4	41.5	3	9.9	4.2	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	飯田市教育委員会1993
一塚塚	長野県諏訪市	円?方?	207	竪穴石室?	剣1	83	67	4.5	16	4.2	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	諏訪市教育委員会1989
栗野山B10号・主体部1	静岡県袋井市	円	10	土埴	剣1	68.2	52.2	4	15.3	3.5	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	袋井市教育委員会2004a
栗野山B10号・主体部2	静岡県袋井市	方	6	土埴	剣2	70.4	56.6	4	13.8	4.1	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	袋井市教育委員会2004a
地蔵ヶ谷3号・第1主体部	静岡県袋井市	円	12	木棺(土埴)	剣1	54	41	3.4	13	3.2	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	袋井市教育委員会2004b
女池ヶ谷11号・北塚	静岡県藤枝市	方	10	割竹木棺	剣1	66.4	53.3	3.2	13.3	2.5	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	藤枝市2007
女池ヶ谷19号	静岡県藤枝市	円	8	割竹木棺	剣1	44.5	34.5	3.3	10	3.5	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	藤枝市2007
龍泉寺1号・第1埋葬	静岡県朝川市	円	14	木棺(土埴)	剣1	46.8	35.2	3.1	11	3.2	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2009
神明社上3号	静岡県浜松市	円	15	木棺?	剣1	69	49	3.3	16	3.2	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	北本市2004
上神塚1号	静岡県磐田市	円	12	木棺(土埴)	剣1	63	44.7	3.8	13.3	3.4	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2011a
大手内3号・第2埋葬	静岡県磐田市	円	16	木棺(土埴)	剣1	75	61.8	4	13.2	4.7	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	豊岡村教育委員会2000
大手内3号・第3埋葬	静岡県磐田市	円	16	木棺(土埴)	剣2	30.4	22.5	2.3	7.9	2.8	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	豊岡村教育委員会2000
西池SF01・塚上土埴	静岡県掛川市	円	19	土埴墓	剣1	30.4	23	4	7.4	3.1	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	掛川市教育委員会2002、2003
西池SF03・塚上土埴	静岡県掛川市	円	19	土埴墓	剣1	69	56.7	4	12.8	4.4	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	掛川市教育委員会2000
西池SF04・塚上土埴	静岡県掛川市	円	19	土埴墓	剣1	78.5	62.3	3.9	16.2	3.8	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	掛川市教育委員会2002、2003
林2号・第1埋葬	静岡県森町	円	16.3	割竹木棺	剣1	53	42	3.6	11	3.8	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2008
林2号・第2埋葬	静岡県森町	円	16.3	割竹木棺	剣2	82	66.4	4.4	15.6	4.3	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2008
文珠堂8号・第1埋葬	静岡県森町	円	20	木棺(土埴)	剣1	75.2	60.3	4.7	14.9	4.0	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2008
文珠堂8号・第2埋葬	静岡県森町	円	20	木棺(土埴)	剣2	68.8	56	3.1	12.6	4.4	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2008
文珠堂11号・第1埋葬	静岡県森町	円	18	木棺(土埴)	剣3	41.6	31	2.4	10.6	2.9	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2008
文珠堂11号・第2埋葬	静岡県森町	円	18	木棺(土埴)	剣1	64	52.5	3.6	14.1	3.7	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2008
文珠堂11号・第3埋葬	静岡県森町	円	18	木棺(土埴)	剣2	59.7	47	3.2	12.1	3.9	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2008
文珠堂12号・第2埋葬	静岡県森町	円	20	木棺(土埴)	剣3	37.1	26.1	3.2	8.2	5.0	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所2008
文珠堂15号・A号石室	群馬県高崎市	円	13	石式石棺	剣1	38.5	30.3	2.3	8.2	3.7	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	高崎市1999

古墳後一統末期

古墳名	所在地	墳形	築期	主体部形状	幅	全高	刃長	刀幅	茎長	刀茎	幅	厚	重量	用途	副葬品	調査機関	備考		
大平山6号横穴	仙台市太白区	横穴	2.2	横穴	剣1	57.2	45.4	3	11.8	3.8	長	直	直	直	無	2	金剛口金具	宮城県教育委員会ほか1990	
下小仏Y48号	山形県川西町	円	14	木棺(土埴)	剣1	56.2	42.3	4.1	13.9	3.0	長	直	直	直	無	1	刃部部分欠	川西市教育委員会1995	
大之塚	山形県川西町	円	16	石式石棺	剣1	84	65.8	4	17.5	3.8	長	直	直	直	無	1	有	不明	山形県教育委員会1979
三塚	茨城県行方市	新方塚	85	石式石棺	剣1	45	32.5	3.2	12.5	2.6	長	直	直	直	無	1	入山?	茨城県教育委員会1960	
上野	茨城県筑西市	不明	不明	石式石棺	剣1	53.9	39.6	3.1	14.3	2.8	長	直	直	直	無	1	不明?	堀内吉1933	
寺野屋1号	栃木県小山市	円	15	木棺(土埴)	剣1	34.6	26.7	3	7.9	3.4	長	直	直	直	無	1	腰刀状	栃木県教育委員会(財)栃木県中央文化財調査団1999	
寺野屋2号	栃木県小山市	円	30	木棺(土埴)	剣1	42	30.5	2.8	12	2.5	長	直	直	直	無	1	不明?	栃木県教育委員会(財)栃木県中央文化財調査団1999	
宮沢1号	群馬県渋川市	円	14.4	不明	剣1	64.6	57	3.8	13.6	3.8	長	直	直	直	無	1	2	僅欠	渋川市教育委員会1979
若宮15号・A号石室	群馬県高崎市	円	13	石式石棺	剣1	46</													

菅笠15号・B号石椁	群馬県高崎市	円	13	箱式石椁	割1	43.5	35	3.6	8.5	4.1	長	広	直	直	一			左体側	高崎市1999	
山名塚口-1号	群馬県高崎市	円	17	横穴式石室	割1	30.2	22.7	2.2	7.5	3.0	長	広	中細	直	葉	1	両刃鎌(真鍮造)		高崎市教育委員会1990	
大跡5号・3号石椁	群馬県前橋市	円	14	箱式石椁	割1	55	41.8	3.2	14.2	2.9	長	広	直	直	一	2	鎌突る	左頭~体側?	群馬県1981,加部二生1995	
白藤V2号	群馬県前橋市	円	14	木棺(土槨)	割1	83	66	4.3	17	3.9	長	広	中細	直	一?	2		左頭~体側?	稲川村教育委員1989	
西館寺5号	埼玉県坂戸市	円	20	粘土槨	割1	42	31.5	3.5	10.5	3.0	長	広	中細	直	葉?	1?		詳細不明	坂戸市1992	
入西石塚	埼玉県坂戸市	円	不明	不明	割1	61	46.7	4.2	14.3	3.3	長	広	中細	直	一?	2	蛇行剣	不明	坂戸市教育委員会2020	
					割2	33.2	27.4	2.7	5.8	4.7	長	広	中細	直	葉?			不明	不明	
菅島B号	埼玉県東松山市	円	17	木槨(粘土槨)	割1	57.5	46.7	3.9	10.8	4.3	長	広	中細	直	葉	1	蛇行剣	出土位置不明	金井輝良~2008	
彌路山1号	埼玉県東松山市	円	19	粘土槨	割1	82	71	4	11	6.5	短	広	直	一	2		左?体側	考古学資料刊行会1970		
					割2	85.3	69	3.6	16.2	4.3	長	広	中細	直	葉?	2	関は鎌刀的	右?体側		
東耕原3号	埼玉県東松山市	円	19	船形土槨	割1	66.3	52	3.3	14	3.7	長	広	中細	直	一	1		左頭~左体側	東松山市教育委員会2013	
反町4号	埼玉県東松山市	軌立貝	40	木槨(粘土槨)	割1	73.6	57.5	4.6	16.1	3.6	長	広	中細	直	葉	1		北頭位なら左体側	(特)埼玉県埋蔵文化財調査事業団2012	
四ノ塚	埼玉県深谷市	円	20-20	磚槨?	割1	45	40	2.8	5	8.0	短	広	直	直?	一?			不明	岡部町教育委員会2005	
					割2	74	58.5	3.8	15.5	3.5	長	広	中細	直	入山	有	2	金象形辛夷鏡	左脚側	埼玉県教育委員会1985
福岡山・第1主体部	埼玉県行田市	前方後円	122	木槨(磚槨)	割2	50.5	37.5	3	13	2.9	長	広	中細	直	一	有	2		右体側	
塚原29号・北主体部	千葉県水戸市	円	23	木槨(土槨)	割1	52.6	39.7	4	12.9	3.1	長	広	中細	直	一	無	1	鉄製鏡・骨を待う	右体側?	藤平祐子1988
今富新山1号	千葉県原市	円	26	木槨(土槨)	割1	30.8	24.2	2.6	6.6	3.7	長	広	直	直	斜?	有	1	鹿角製柄	右体側?	(特)千葉県文化財センター1999
花野井大塚	千葉県柏市	円	20	木槨(粘土槨)	割1	75.1	61.1	3	14	4.4	長	広	中細?	斜	斜?	3?		右体側?	柏市教育委員会2001	
島山2号	千葉県富里市	円	23	木槨(土槨)	割1	45	34.5	3.1	10.9	3.2	長	広	直	直	一	2	種純三角形		芝山はな木博隆監1975	
河原塚1号・第1主体部	千葉県松戸市	円	26	木槨(土槨)	割1	46.3	35	4	11.3	3.1	長	広	中細	直	一	2		右体側-棺外?	松戸市誌編纂委員会 1999	
香取塚2号	千葉県野田市	円	28	木槨(土槨)	割1	54.1	42	2.6	12	3.5	長	広	中細?	直	一?	2			野田市2005	
万田熊之台11号横穴	神奈川県平塚市	横穴墓	2.3	横穴墓	割1	44	34.5	2.7	9.5	3.6	長	広	中細	不明	一	有	1	茎湾曲?	第3種庄	平塚市1999
月の水1号・塚野跡3	長野県飯田市	円	22.5	土槨墓?	割1	45	35.5	3.8	9.5	3.7	長	広	中細	直	一?	有	無	鎌角張る?両隣切?	古墳掘削調査出土	飯田市教育委員会2003
妙前大塚	長野県飯田市	円	30	木槨(磚槨)?	割1	59	46.7	4.4	12.3	3.6	長	広	中細	直	有	2		擾乱状態?出土	飯田市教育委員会1972	
千人塚C13号	静岡県浜松市	方(横石槨)?	8	木槨(土槨)	割1	50.5	38.5	4.5	12	3.2	長	広	中細	直	有				松原教育委員会1988	
					割2	77	62.5	3.9	14.5	4.3	長	広	直	直	一	有			右脚側	
観音ツツラ	静岡県浜松市	円	25	新竹木槨(土槨)	割2	59.5	49.5	3.9	10	5.0	長	広	直	直	一	有			左体側	浜北市2004
上石野4号・第1主体部	静岡県浜松市	円	11.5	木槨(土槨)	割1	69.6	54	3.8	15.6	3.5	長	広	中細	直	葉?	2	茎湾かに湾曲	右体側	(特)静岡県埋蔵文化財調査研究所1997	
中原4号	静岡県富士市	円	11.8	横穴式石室	割1	48	38.4	3.4	9.6	4.0	長	広	中細	直	一				富士市教育委員会2016	

《 表1 凡例 》

- 遺構名・埋葬施設：原則として「古墳」は省略、号墳→「号」、方形周溝墓→「方周墓」、円形周溝墓→「円周墓」、横穴墓→「横穴」等と略
- 所在地：2025年現在の所在市町村
- 主軸長：単位はm、円墳は直径、方墳は最長の一辺長（基本的に基底部長）
- 主体部：基本的に報告書の判断を尊重（土墳墓は「土墳」と省略）
- 剣 No.：完形または復元可能な剣に付した便宜的番号（報告書で「槍」・「鎗」「ヤリ」と表記してあるものは「槍」と表記した）
- 全長～目釘の各数値：報告書記載値（記載なしの場合は実測図から起こした数値、単位：cm）
 刃幅：通常は刃の茎付近の最大値
 茎長・短：刃長（身の長さ）の1/5を基準にプロポーションとしての長・短に分類
 関幅：身幅最大値に対する関付近の茎幅の1/2を基準に広・細に分類
 ※その他、形態は第3図に示したとおり
 ※斜体の数値：復元長(推定長・値)で単位はcm（セルを黄色にしてある）
- 出土位置：被葬者自身から見た左右で柄部分が出土した位置、「頭部上方」は頭部が向いた主体部の主軸先方、「足下方」は足の向く主軸先方（右上図参照、遺体が遺存しない限り確定が困難なので基本的に大まかな推定位置と理解されたい）
- 報告書：実測図を掲載する報告書等（本文末掲載の一覧参照）

